

拡張スロット用LANボード LGY-98Jシリーズ ユーザーズマニュアル

ご使用になる前に**1**

本製品の取り付け**2**

Windows98/95 **環境での設定****3**

WindowsNT4.0 **環境での設定****4**

WindowsNT3.51 **環境での設定****5**

Windows3.1/DOS **環境での設定****6**

LAN ボード診断プログラム**7**

トラブルシューティング**T**

用語集**W**

付録**A**

このたびは、LGY-98Jシリーズをお買い求めいただき、誠にありがとうございます。本書は、LGY-98Jシリーズの取り扱いかたと、Windows98/95/WindowsNT4.0/NT3.51/Windows3.1へのドライバのインストール手順について説明しています。

本書の著作権は弊社に帰属します。本書の一部または全部を弊社に無断で転載、複製、改変などを行うことは禁じられています。

本書に記載されている他社製品名は、一般に各社の商標または登録商標です。

本書では™、®、©などのマークは記載していません。

本書に記載された仕様、デザイン、その他の内容については、改良のため予告なしに変更することがあります。

本書の内容に関しては万全を期して作成していますが、万一ご不審な点や誤り、記載漏れなどがありましたら、お買い求めになった販売店または弊社インフォメーションセンターまでご連絡ください。

また、本製品の使用に起因する損害や逸失利益の請求などにつきましては、上記にかかわらず弊社はいかなる責任も負いかねますのであらかじめご了承ください。

本製品は日本国内でのみ使用されることを前提に設計、製造されています。日本国外で使用した場合の運用結果につきましては、いかなる責任も負いかねますのであらかじめご了承ください。

また弊社は、本製品に関して海外での保守および技術サポートは行っておりません。

本製品のうち、外国為替および外国貿易管理法の規定により戦略物資等(または役務)に該当するものについては、日本国外への輸出に際して、日本国政府の輸出許可(または役務取引許可)が必要です。

安全にお使いいただくために必ずお守りください



お客様や他の人々への危害や財産への損害を未然に防ぎ、本製品を安全にお使いいただくために守っていただきたい事項を記載しました。

正しく使用するために、必ずお読みになり、内容をよく理解された上でお使いください。なお、本書には弊社製品だけでなく、弊社製品を組み込んだパソコンシステム運用全般に関する注意事項も記載されています。




パソコンの故障/トラブルや、いかなるデータの消失・破損または、取り扱いを誤ったために生じた本製品の故障/トラブルは、弊社の保証対象には含まれません。あらかじめご了承ください。

使用している表示と絵記号の意味

警告表示の意味

 警告	絶対に行ってはいけないことを記載しています。この表示の注意事項を守らないと、使用者が死亡または、重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
 注意	この表示の注意事項を守らないと、使用者がけがをしたり、物的損害の発生が考えられる内容を示しています。

絵記号の意味

	は、警告・注意を促す記号です。 の近くに具体的な警告内容（例：⚠ 感電注意）が描かれています。
	に斜線は、してはいけない事項（禁止事項）を示す記号です。の中や近くに、具体的な禁止事項が描かれています。（例：🚫 分解禁止）
	は、しなければならない行為を示す記号です。の近くに、具体的な指示内容（例：🔌 電源プラグをコンセントから抜く）が描かれています。

警告



液体や異物が内部に入ったら、パソコンおよび周辺機器の電源スイッチをOFFにし、ACコンセントから電源プラグを抜いてください。

そのまま使用を続けると、ショートして火災になったり、感電する恐れがあります。弊社インフォメーションセンターまたは、お買い求めの販売店にご相談ください。



風呂場など、水分や湿気が多い場所では、本製品を使用しないでください。

火災になったり、感電・故障する恐れがあります。



小さなお子様が電気製品を使用する場合には、本製品の取り扱い方法を理解した大人の監視、指導のもとで行うようにしてください。



強制

電気製品の内部やケーブル、コネクタ類に小さなお子様の手が届かないように機器を配置してください。

けがをする危険があります。



強制

本製品を取り付け、使用する際は、必ずパソコンメーカーおよび周辺機器メーカーが提示する警告・注意指示に従ってください。



分解禁止

本製品の分解や改造や修理を自分でしないでください。
火災や感電の恐れがあります。



電源プラグを
抜く

煙が出たり変な臭いや音がしたら、パソコンおよび周辺機器の電源スイッチをOFFにし、ACコンセントから電源プラグを抜いてください。

そのまま使用を続けると、ショートして火災になったり、感電する恐れがあります。弊社インフォメーションセンターまたは、お買い求めの販売店にご相談ください。



禁止

本製品を落としたり、強い衝撃を与えたりしないでください。

本製品は精密な機器ですので、衝撃を与えないように慎重に取り扱ってください。衝撃は本製品の故障の原因となります。



電源プラグを
抜く

本製品の取り付け/取り外しをするときは、本製品およびパソコン、周辺機器の電源スイッチをOFFにし、電源プラグをコンセントから抜いてください。

電源プラグをコンセントに接続されたまま、取り付け/取り外しを行うと、感電および故障の原因となります。

注意



強制

静電気による破損を防ぐため、本製品に触れる前に、身近な金属（ドアノブやアルミサッシなど）に手を触れて、身体の静電気を取り除くようにしてください。

人体などからの静電気は、本製品を破損、またはデータを消失・破損させる恐れがあります。



強制

本製品の取り付け/取り外しや、ソフトウェアをインストールするときなど、お使いのパソコン環境を少しでも変更するときは、変更前に必ずパソコン内（ハードディスク等）のデータをすべてMOディスク、フロッピーディスク等にバックアップしてください。

誤った使い方をしたり、故障などが発生してデータが消失、破損したときなど、バックアップがあれば被害を最小限に抑えることができます。

データが消失、破損したことによる損害については、弊社はいかなる責任も負いかねますので、あらかじめご了承ください。



強制

ハードディスク内のデータは、必ず他のメディア（フロッピーディスク、MOディスク等）にバックアップしてください。

とくに、修復・再現できない重要なデータは、オリジナルの更新前・更新後と、常に二重のバックアップを作成されることをおすすめします。以下のような場合に、データは消失・破損する恐れがあります。

- ・ 誤った使い方をしたとき
- ・ 静電気や電氣的ノイズの影響を受けたとき
- ・ 故障、修理などのとき
- ・ パソコンの電源OFF直後に、すぐに電源を入れたとき
- ・ 長時間使っていないため電池が自然放電したとき
- ・ 天災による被害を受けたとき

上記の場合、またその他いかなる場合でも、データが消失・破損したことによる損害について弊社はいかなる責任も負いかねますので、あらかじめご了承ください。



禁止

濡れた手で本製品に触れないでください。

パソコンおよび周辺機器の電源プラグがACコンセントに接続されているときは、感電の原因となります。また、ACコンセントに接続されていなくても本製品の故障の原因となります。



禁止

ハードディスク、MO、フロッピーディスクドライブなどの、データの格納用機器へのアクセス中は、パソコンや機器の電源をOFFにしたり、リセットしないでください。

データを消失・破損する恐れがあります。データが消失、破損したことによる損害については、弊社はいかなる責任も負いかねますので、あらかじめご了承ください。



禁止

アプリケーションソフトの動作中に電源を切ったり、リセットしないでください。

データを消失・破損する恐れがあります。データが消失、破損したことによる損害については、弊社はいかなる責任も負いかねますので、あらかじめご了承ください。



禁止

次の場所には設置しないでください。感電、火災の原因となったり、製品やパソコンに悪影響を及ぼすことがあります。

- ・ 強い磁界が発生するところ
故障の原因となります。
- ・ 静電気が発生するところ
故障の原因となります。
- ・ 平らでないところ
転倒したり、落下して、けがや故障の原因となります。
- ・ 温度、湿度がパソコンのマニュアルが定めた使用環境を超える、または結露するところ
故障の原因となります。
- ・ 振動が発生するところ
けが、故障、破損の原因となります。
- ・ 直射日光が当たるところ
故障や変形の原因となります。
- ・ 火気の周辺、または熱気のこもるところ
故障や変形の原因となります。
- ・ 漏電の危険があるところ
故障や感電の原因となります。
- ・ 漏水の危険があるところ
故障や感電の原因となります。

目次

1	ご使用になる前に	6
	本書の使い方	6
	本製品の概要	7
	パッケージの内容	8
	各部の名称とはたらき	10
	セットアップのながれ	12
2	本製品の取り付け	13
	取り付け前の注意事項	13
	本製品の取り付け	13
	ケーブルの接続	16
	LGH-98J-T の接続について	20
3	Windows98/95 環境での設定	22
	ドライバのインストールを始める前に	22
	本製品の設定	26
	ネットワークの設定例	28
4	WindowsNT4.0 環境での設定	36
	ドライバのインストール	37
	本製品の設定を変更するときは	41
	本製品の動作確認	42
5	WindowsNT3.51/3.5 環境での設定	43
	ドライバのインストール	44
	本製品の設定を変更するときは	46
	本製品の動作確認	47

6 Windows3.1/DOS 環境での設定 48

本製品の設定	48
設定ファイルの生成	50
NET.CFG ファイルについて	51
NetWare 4.1J クライアント	52
NetWare 3.12J クライアント	53
NetWare 4.1J サーバ	54
NetWare 3.12J サーバ	55
マイクロソフト LAN マネージャクライアント	57
パケットドライバ	60
NetWare Lite J	61
Personal NetWare J	62

7 LAN ボード診断プログラム 63

LAN ボード診断プログラムの実行	63
診断結果	65

T トラブルシューティング 67

W 用語集 71

A 付録 74

製品仕様	74
モジュラコネクタ(MDI)仕様	75
索引	76

1

ご使用になる前に


本製品をお使いになる前に知っておいていただきたいことを説明します。
必ずお読みください。

本書の使い方

本書を正しくご活用いただくための表記上の約束ごとを説明します。

表記上の約束

注意マーク

 **注意** に続く説明文は、製品の取り扱いにあたって特に注意すべき事項です。この注意事項に従わなかった場合、身体や製品に損傷を与える恐れがあります。

メモマーク

 **メモ** に続く説明文は、製品の取り扱いに関する補足事項、知っておくべき事項です。

参照マーク

 **参照** に続くページは、関連のある項目のページを記しています。

次の動作マーク

 **次へ** に続くページは、次にどこのページへ進めば良いかを記しています。

コラムマーク



このマークがついている説明文は、知っていると便利な知識について説明しています。

文中の用語表記

- ・本書では、次のようなドライブ構成を想定して説明しています。
 - A: ハードディスクドライブ
 - B: 3.5インチフロッピーディスクドライブ
 - C: CD-ROMドライブ
- ・本書では、製品名(LGY-98J-2, LGY-98J-T, LGY-98J-M, LGH-98J-T, LGY-98J-N2, LGY-98J-NT)を「本製品」と表記しています。
- ・文中『 』で囲んだ名称は、ソフトウェアやダイアログボックスの名称を表わしています。
- ・文中[]で囲んだ名称は、操作の際に選択するメニュー、ボタン、チェックボックスなどの名称を表わしています。

本製品の概要

本製品の特長、動作環境について説明します。

特長

本製品は、PC-98シリーズの拡張スロットに取り付けて使用するLANボードです。
本製品の特長は下記の通りです。

- 10BASE-T¹、10BASE2²、10BASE5³(IEEE802.3)規格準拠
- RJ-45コネクタ1ポート装備¹
- BNCコネクタ1ポート装備²
- AUIコネクタ1ポート装備³
- RJ-45コネクタ8ポート装備⁴

1: LGY-98J-T, LGY-98J-M, LGY-98J-NT

2: LGY-98J-2, LGY-98J-M, LGY-98J-N2

3: LGY-98J-M

4: LGH-98J-T

動作環境

対応機種

LGY-98J-2/T/M、LGH-98J-T

NEC PC-98シリーズデスクトップ

EPSON PC-286/386/486/586シリーズデスクトップ

LGY-98J-N2/NT

NEC PC-9801 N, NS, NV, NL⁵, NC, NS/L, NA, NS/R, NX/C, NS/A PC-9821 Ne, Np⁶, Ns⁶, Nf⁶

EPSON 386NOTE AE/AR 486NOTE AS/AU/AV/AT 586NOTE AT

5: 拡張バスにNEC製拡張バック(PC-9801NL-01)が必要です。

6: 拡張バスにNEC拡張バス変換コネクタ(PC-9821N-U07)が必要です。

対応OS

- Windows98
- Windows95
- WindowsNT4.0/3.51/3.5
- Windows3.1
- MS-DOS 3.1以降

1

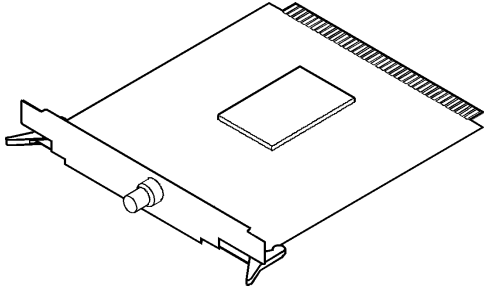
ご使用になる前に

パッケージの内容

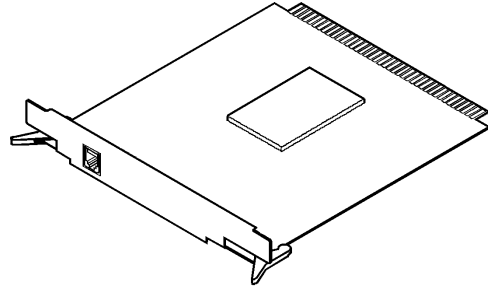
パッケージには、次のものが梱包されています。万が一、不足しているものがありましたら、お買い求めの販売店にご連絡ください。

LANボード(本製品) いずれか1個

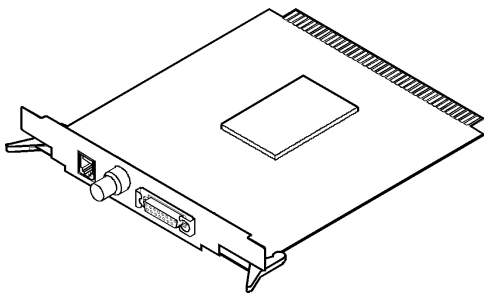
LGY-98J-2



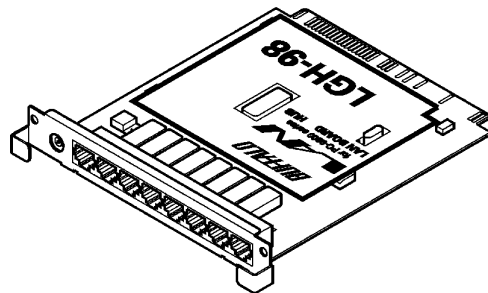
LGY-98J-T



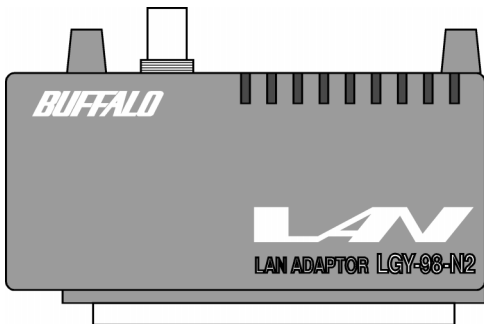
LGY-98J-M



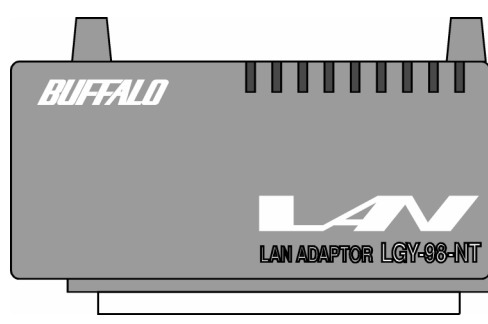
LGH-98J-T



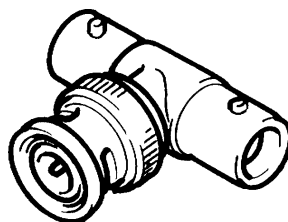
LGY-98J-N2



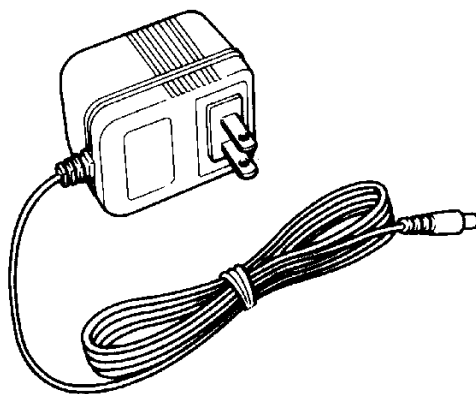
LGY-98J-NT



T型コネクタ(LGY-98J-2/N2/Mのみ付属) 1個



ACアダプタ(LGH-98J-Tのみ付属) 1個



LAN Boardユーティリティディスク(3.5インチ) 1枚

ユーザーズマニュアル(本書) 1冊

ユーザー登録はがき、保証書 1枚

メモ

- ・ユーザー登録はがきは保証書を切り離した後、必要事項をご記入のうえ、必ず弊社までご返送ください。また、切り離した保証書は大切に保管してください。
- ・別刷で追加情報が同梱されているときは、必ず参照してください。

添付ディスクのバックアップ

本製品に添付されているLAN Boardユーティリティディスクは、必ずバックアップを作成し、実際の作業にはバックアップしたディスクを使用してください。

メディアコンバージョンサービスについて

本製品には、3.5インチのフロッピーディスクのみを添付しています。5インチのフロッピーディスクモデルをお使いの場合、弊社インフォメーションセンターにて5インチフロッピーディスクへのメディアコンバージョンサービスを承っています。(税込み 1,000円)

ご希望の場合は、下記までご連絡ください。

(株)メルコ 備品販売窓口

TEL 052-619-1833 月曜日～金曜日(祝日を除く) 9:30～12:00 / 13:00～17:00

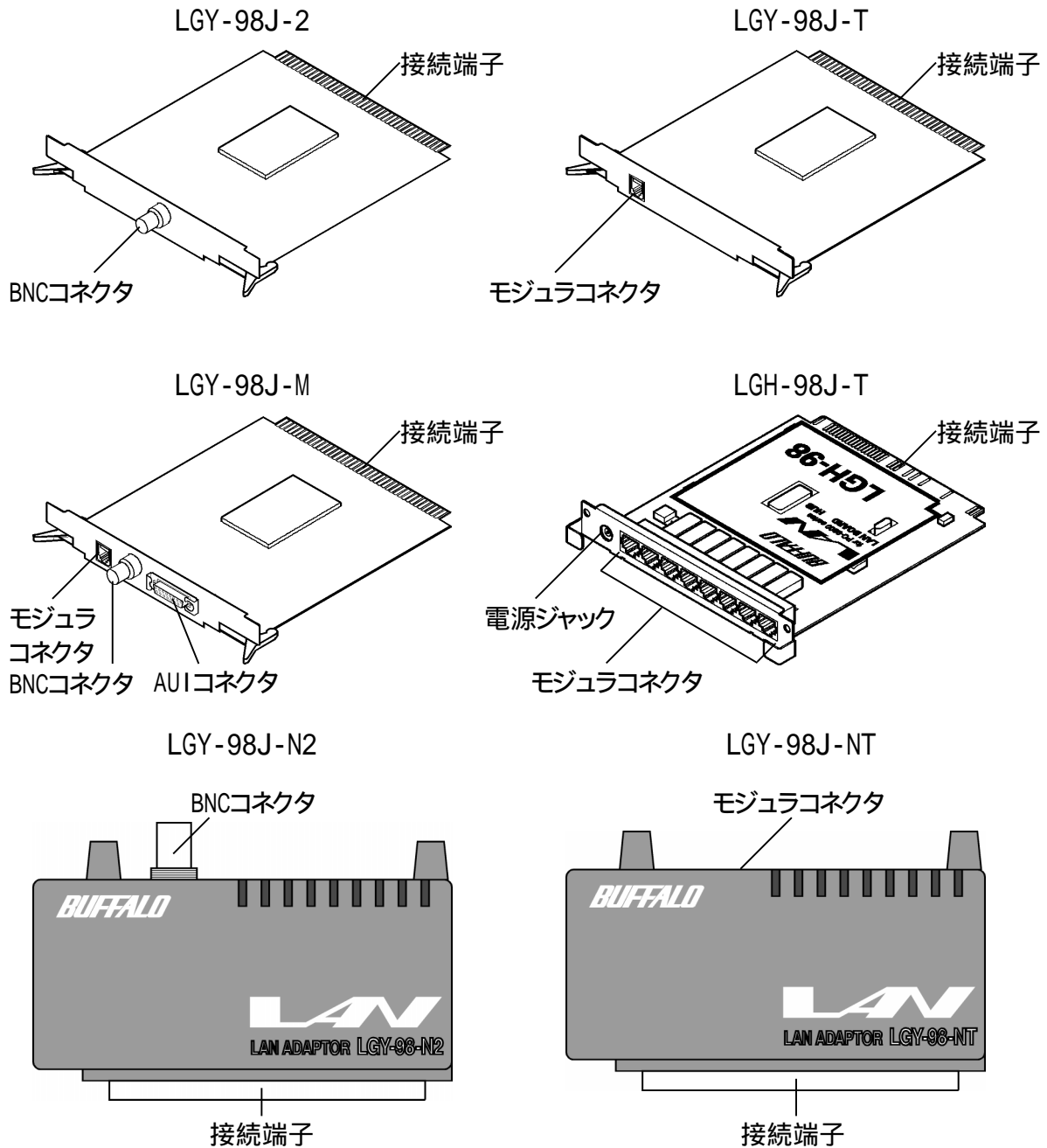
1

ご使用になる前に

各部の名称とはたらき

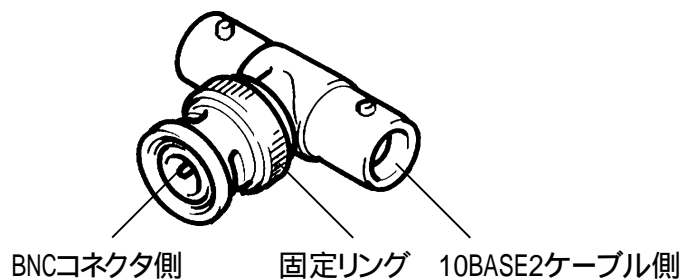
LANボード(本製品)とT型コネクタ(LGY-98J-2/N2/Mのみ付属)の各部の名称とはたらきについて説明します。

LANボード



名称	はたらき
モジュラコネクタ	UTPストレートケーブル(別売:弊社製ETPケーブル)のモジュラジャックを接続します。
BNCコネクタ	T型コネクタを接続します。
AUIコネクタ	トランシーバケーブルを接続します。
電源ジャック	ACアダプタを接続します。
接続端子	パソコンの拡張スロットへ接続する端子です。 ▲注意 接続端子には絶対に触れないでください。故障の原因となります。

T型コネクタ(LGY-98J-2/N2/Mのみ付属)



名 称	はたらき
固定リング	T型コネクタを本製品に固定するリングです。
BNC コネクタ側	本製品のBNCコネクタに接続する端子です。
10BASE2ケーブル側	10BASE2ケーブルを接続する端子です。

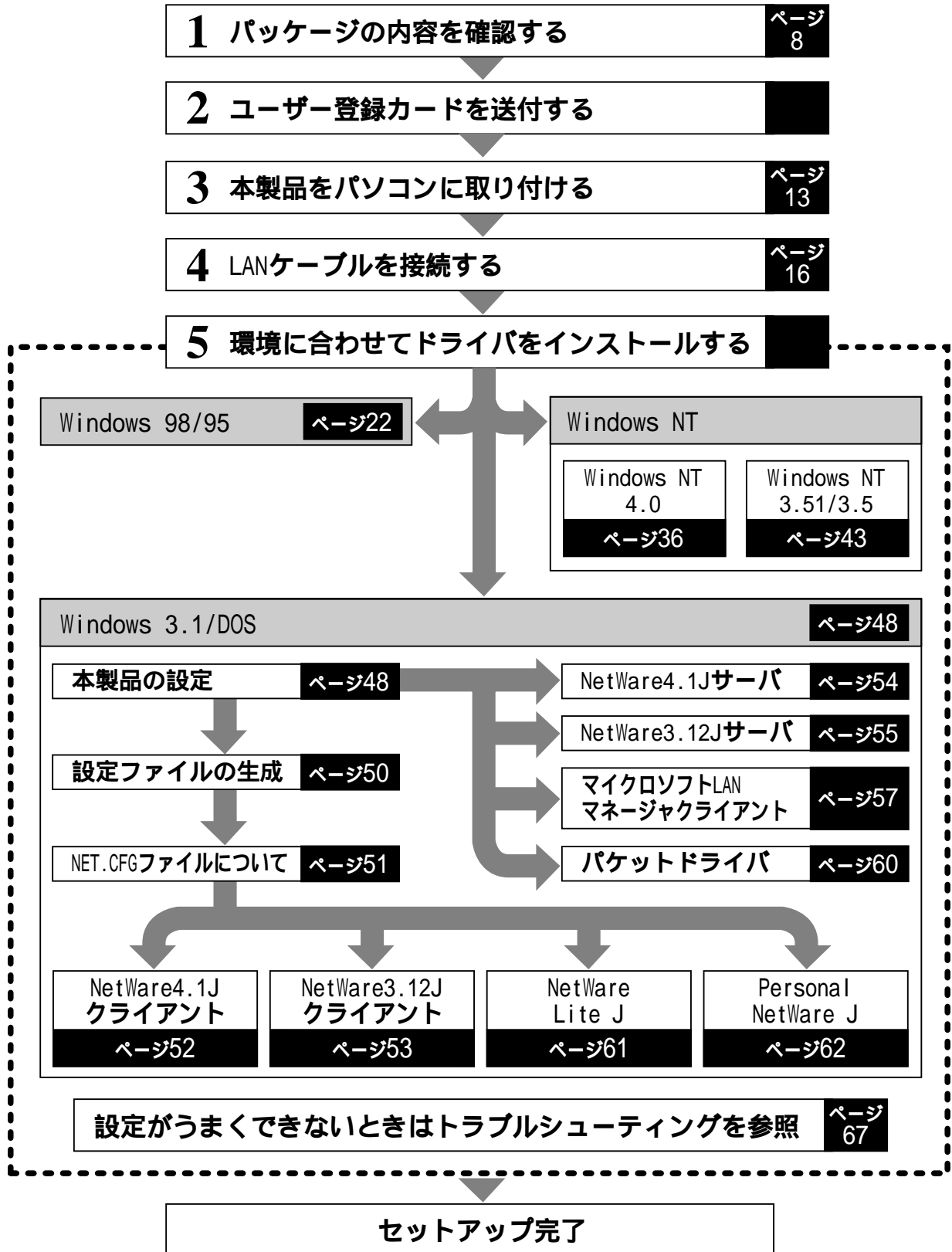
1

ご使用になる前に

セットアップのながれ

本製品をパソコンにセットアップする手順を説明します。全体のながれを理解してください。

セットアップの前に本書をよくお読みください



2

本製品の取り付け

本製品をパソコンへ取り付ける手順、LANケーブルの接続のしかたを説明します。
取付け前の注意事項をよくお読みになってから本製品の取り付けを行ってください。

取り付け前の注意事項

- ・作業を行う前にパソコンおよび周辺機器の電源スイッチをOFFにし、ケーブル類を取り外してください。電源がONのまま取り付けや取り外しを行うと、感電するおそれがあります。
- ・各種コネクタのチリやホコリなどは取り除いてください。
- ・パソコンおよび周辺機器の取り扱い、各機器に付属のマニュアルに記載されている手順に従ってください。
- ・静電気による破損を防ぐため、本製品に触れる前に身近な金属（ドアノブやアルミサッシなど）に手を触れて、身体の静電気を取り除くようにしてください。

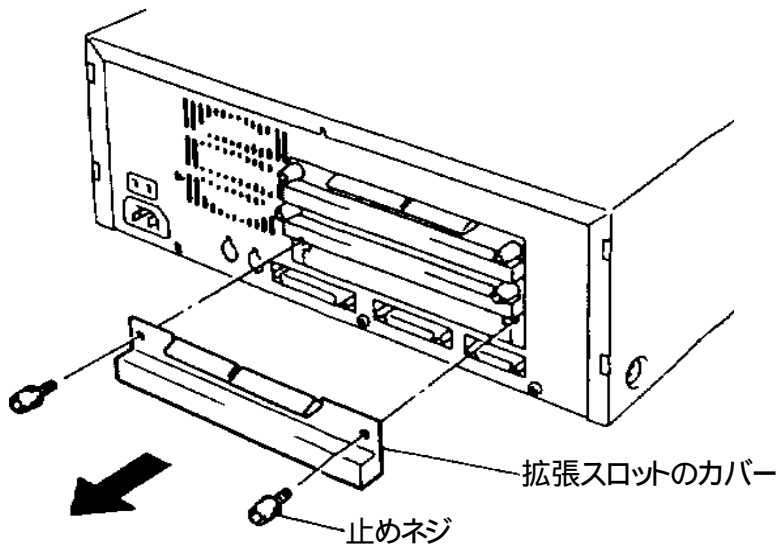
本製品の取り付け

メモ

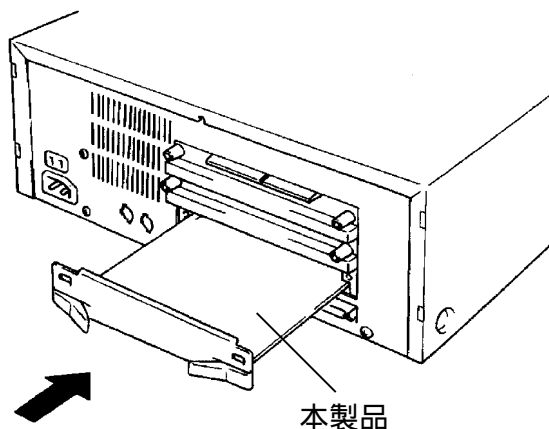
- ・パソコンの機種によって、本製品の取り付け方法や取り付け位置が異なります。必ずパソコン本体のマニュアルを参照し、各メーカーの定める手順に従って取り付けてください。
- ・周辺機器の取り付け / 取り外しについては、各周辺機器のマニュアルを参照し、各メーカーの定める手順に従ってください。

LGY-98J-2/T/M, LGH-98J-T

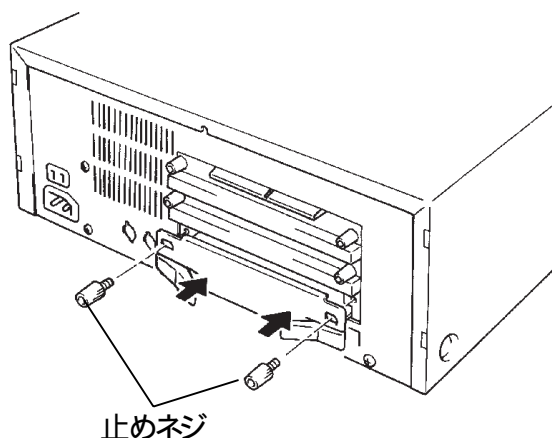
- 1 パソコンおよび周辺機器の電源スイッチをすべてOFFにします。
- 2 ケーブル類をすべて取り外します。
- 3 本製品を取り付ける拡張スロットのカバー(止めネジ)を取り外します。



- 4 本製品を拡張スロットのガイドレールに沿って、拡張スロットに差し込みます。奥までしっかり差し込まれているか確認してください。



- 5 拡張スロットのカバーを固定していた止めネジで本製品を固定します。



- 6 パソコンを元どおりに組み立てます。

▲注意 パソコンの電源は、LANケーブルの接続が完了するまで、入れないでください。

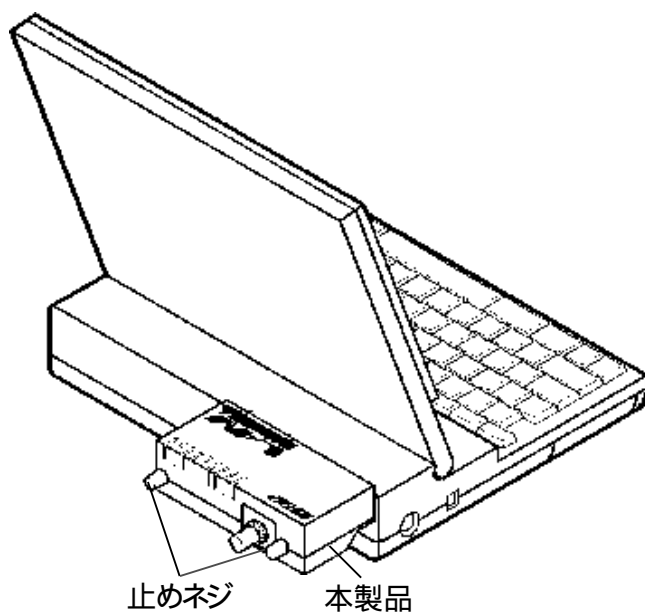
▼次へ ケーブルの接続(P16)へ進みます。

メモ 電源供給について(LGH-98J-Tのみ)

LGH-98J-Tは、ACアダプタ(本製品付属)から電源供給を行うことで、取り付けられているパソコン本体の電源のON/OFFにかかわらずハブの機能を保持します。安定したネットワークの運用のため、できる限りACアダプタを使用して電源の供給を行ってください。ACアダプタを使用しないと、LGH-98J-Tはパソコン本体から電源を供給します。この場合、取り付けられているパソコンのシステムがダウンした場合など、データやネットワークに悪影響をおよぼすおそれがあります。

LGY-98J-N2/NT

- 1 ノートパソコンの背面カバーを開けます。
- 2 ノートパソコンの拡張バス(I/O拡張スロットを取り付ける部分)のコネクタに本製品を取り付けます。
- 3 左右の止めネジを回し、しっかり固定します。



⚠注意 パソコンの電源は、LANケーブルの接続が完了するまで、入れないでください。

▶次へ ケーブルの接続(P16)へ進みます。

ケーブルの接続

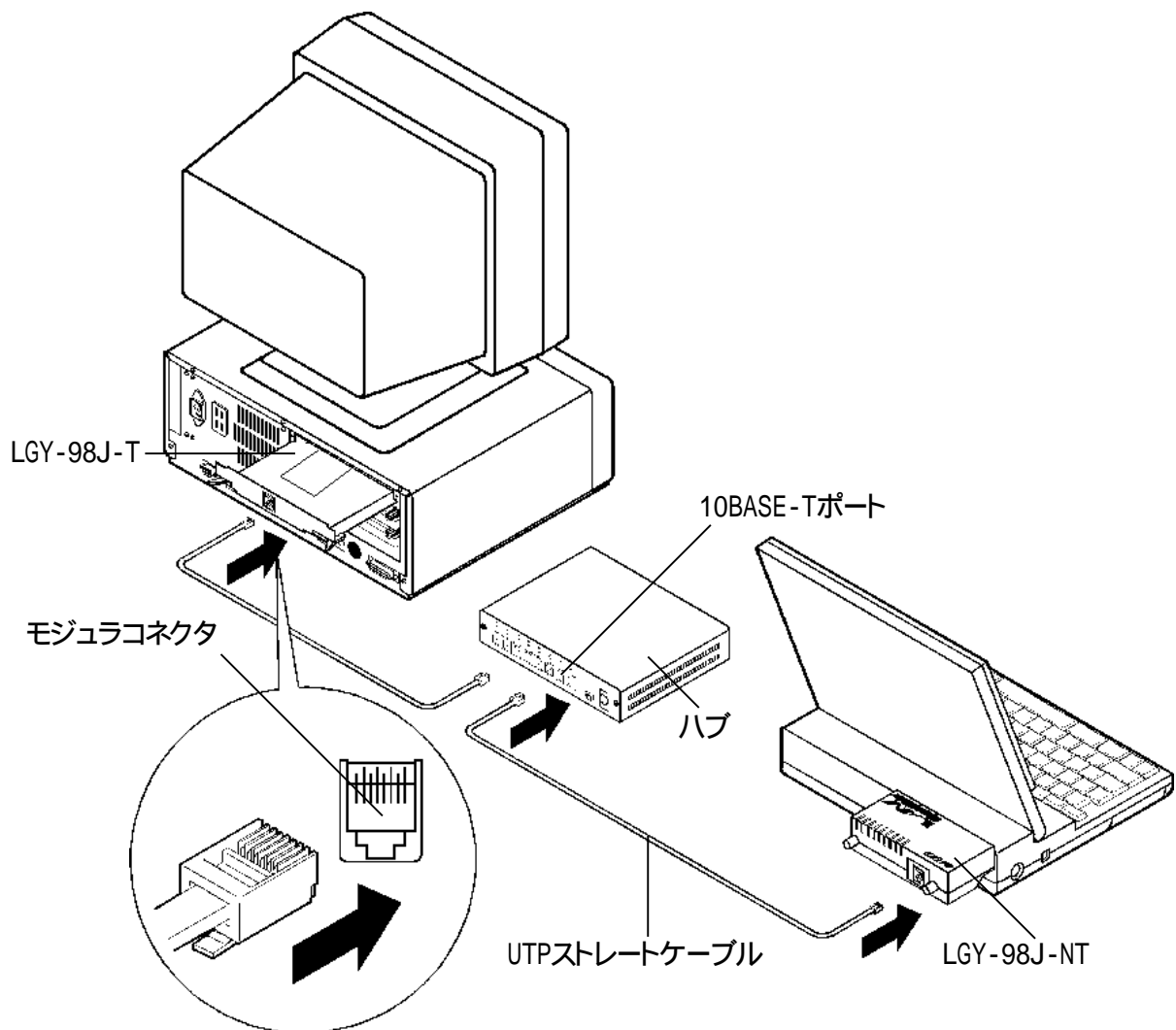
LGY-98J-T/NT/M(10BASE-Tケーブルの接続)

ネットワークに接続するときは、次のものが必要になります。

UTPストレートケーブル(別売: 弊社製ETPケーブル)
10BASE-Tハブ

△注意 LGY-98J-Mのコネクタは、10BASE-T、10BASE2、10BASE5のうち1種類しか使用できません。

- 1 UTPストレートケーブルの片方のモジュラジャックを本製品のモジュラコネクタに接続します。
カチッと音がするまで差し込んでください。
- 2 UTPストレートケーブルのもう片方のモジュラジャックをハブの10BASE-Tポートに接続します。
カチッと音がするまで差し込んでください。
- 3 手順1,2と同様に他のパソコンとハブを接続します。



LGY-98J-2/N2/M(10BASE2ケーブルの接続)

ネットワークに接続するときは、次のものが必要になります。

10BASE2ケーブル(別売:弊社製ET2-2/5/10/20/50)

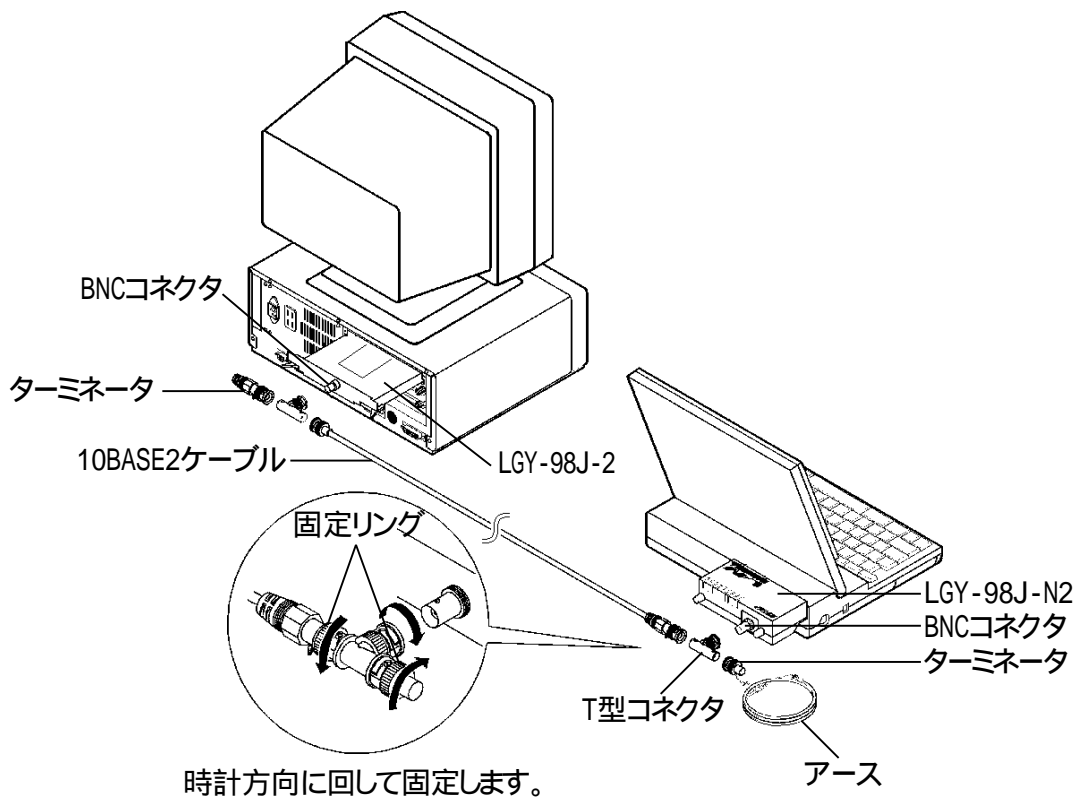
T型コネクタ(本製品付属)

ターミネータ

アース付きターミネータ

注意 LGY-98J-Mのコネクタは、10BASE-T、10BASE2、10BASE5のうち1種類しか使用できません。

- 1 10BASE2ケーブルとT型コネクタを接続します。
固定リングを時計方向に回してしっかり固定してください。
- 2 ケーブルを接続しないコネクタ部にターミネータを取り付けます。
注意 ターミネータは、ひとつのLAN構成の両端に必ず取り付けてください。片方のターミネータは、アースに接続してください。
- 3 T型コネクタを、BNCコネクタに接続します。



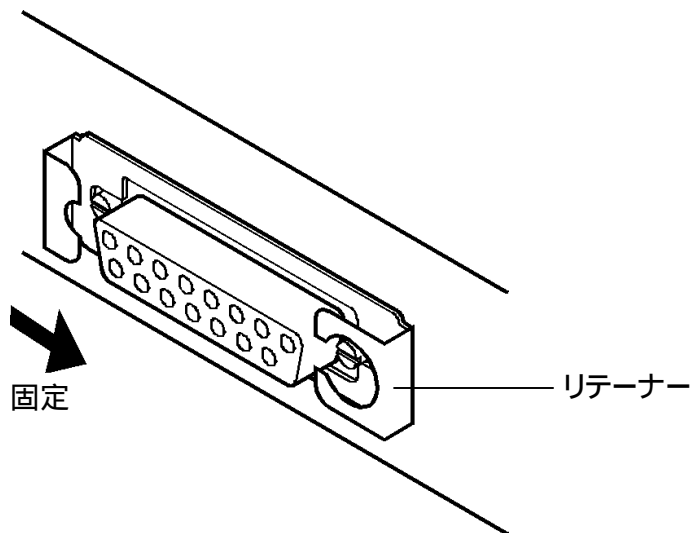
LGY-98J-M(10BASE5ケーブルの接続)

ネットワークに接続するときは、次のものがようになります。

トランシーバケーブル(別売)

△注意 LGY-98J-Mのコネクタは、10BASE-T、10BASE2、10BASE5のうち1種類しか使用できません。

- 1 トランシーバケーブルをコネクタに接続します。
- 2 リテーナーを右にスライドさせてコネクタを固定します。
ロックの向きを必ず確認してください。



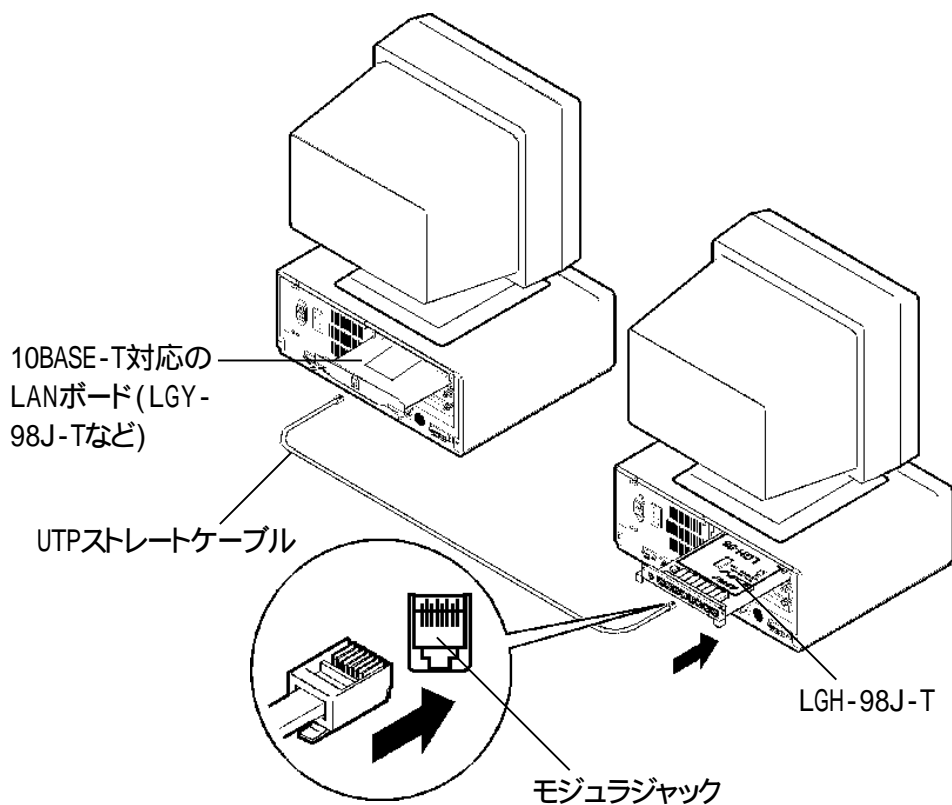
□メモ トランシーバケーブルをコネクタから外すときは、リテーナーを左にスライドさせてください。

LGH-98J-T (10BASE-Tケーブルの接続)

ネットワークに接続するときは、次のものが必要になります。

UTPストレートケーブル(別売: 弊社製ETPケーブル)

- 1 UTPストレートケーブルの片方のモジュラジャックを10BASE-T対応のLANボード(またはハブ)の10BASE-Tポートに接続します。
カチッと音がするまで差し込んでください。
- 2 UTPストレートケーブルのもう片方のモジュラジャックをLGH-98J-Tの10BASE-Tポート1から8のいずれかに接続します。
カチッと音がするまで差し込んでください。



LGH-98J-Tの接続について

ネットワーク構成上の注意事項

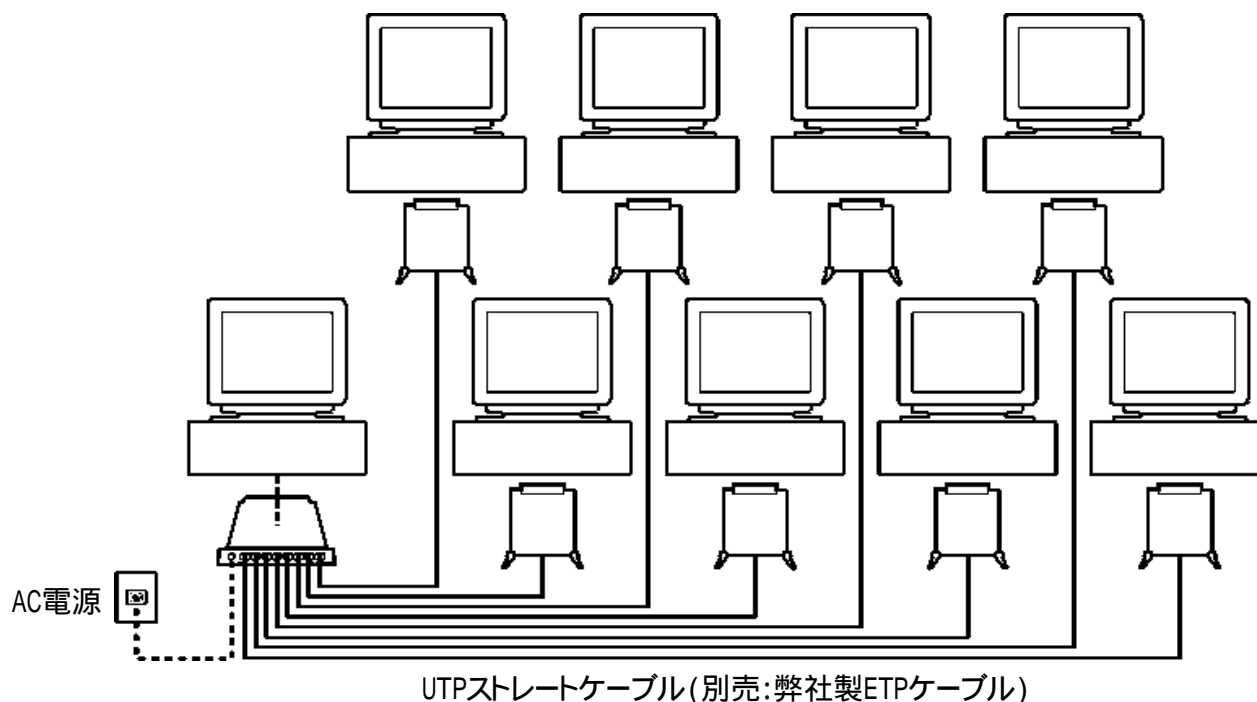
ネットワーク構成時に使用するケーブルと制限距離は、接続先により異なります。
次の表に従って接続をしてください。

接続	使用ケーブル	制限距離
LGH-98J-T - パソコン	UTPストレートケーブル	100m
LGH-98J-T - ハブ(カスケードポートあり)	UTPストレートケーブル	100m
LGH-98J-T - ハブ(カスケードポートなし)	UTPクロスケーブル	100m
LGH-98J-T - LGH-98J-T	UTPクロスケーブル	100m

カスケード段数の制限により、パソコン間のハブは最大4台までです。

一般的な接続の例

最大8台までのノード(パソコンなど)をUTPストレートケーブル(別売:弊社製ETPケーブル)で接続します。

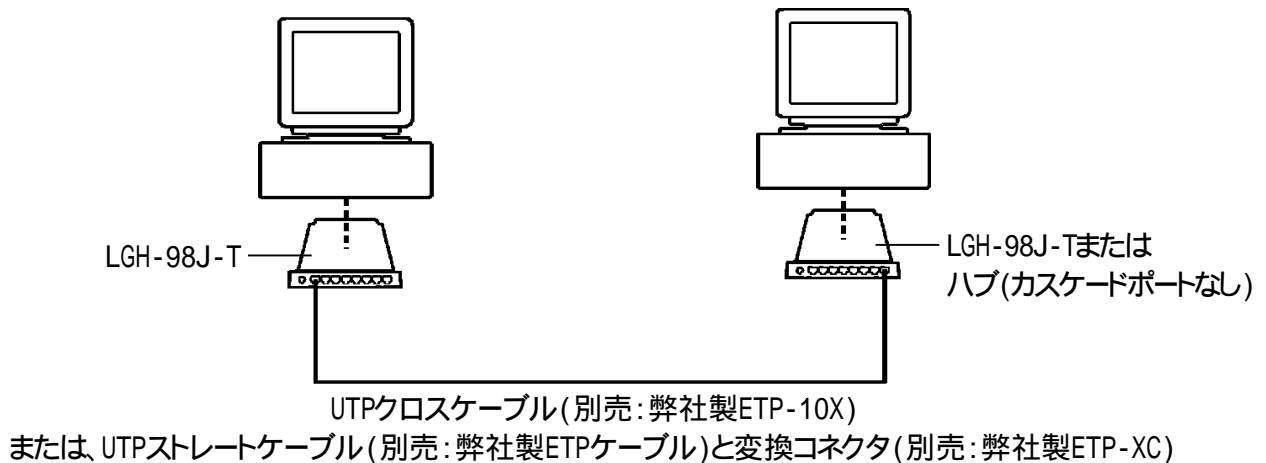


カスケード接続の例

1台のLGH-98J-Tを使用して構築することのできるネットワークの最大ノード数(パソコンなどの最大接続台数)は、LGH-98J-Tを取り付けたパソコンのノードを含めて“9”までです。10台以上のネットワークを構築するためには、複数のLGH-98J-Tまたはハブが必要です。複数のハブを使用した階層的な接続を、カスケード接続といいます。

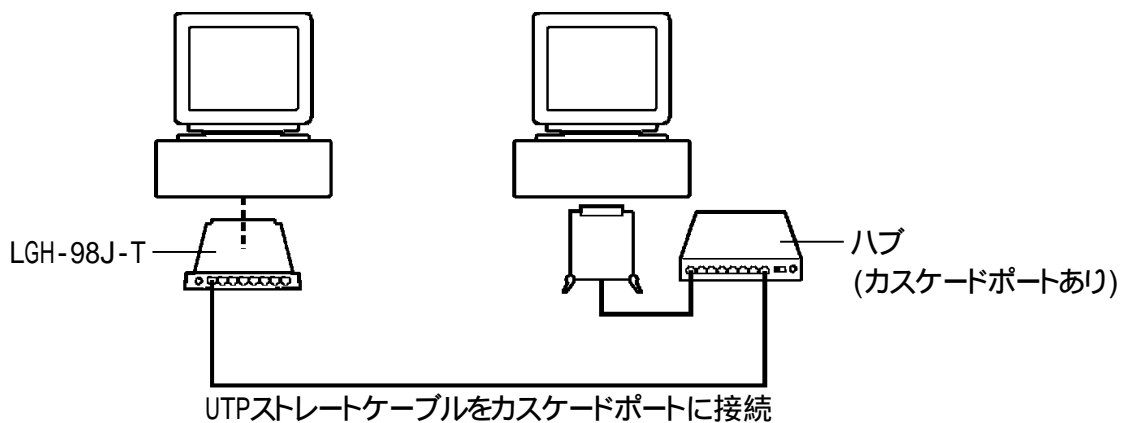
注意 LGH-98J-Tには、10BASE5用AUIコネクタ、10BASE2用BNCコネクタはありません。幹線LANに接続する必要のある場合、ハブ(別売:弊社製LHB-S4/S8など)を使用してください。

2台のLGH-98J-Tのカスケード接続またはハブ(カスケードポートなし)とのカスケード接続
UTPクロスケーブル(別売:弊社製ETP-10X)またはUTPストレートケーブル(別売:弊社製ETPケーブル)と変換コネクタ(別売:弊社製ETP-XC)を使用して接続します。1~8のいずれのポートを使用しても構いません。



LGH-98J-Tとハブ(カスケードポートあり)とのカスケード接続

LGH-98J-Tの1~8ポートのいずれかと、ハブのカスケードポートをUTPストレートケーブルで接続します。



3

Windows 98 / 95 環境での設定

ご使用の環境がWindows98/95の場合は、以下の手順に従って、本製品の設定を行ってください。



Windows98/95のドライブ構成について

ドライバをインストールする前に、Windows98/95のドライブ構成を次の手順で確認してください。

1 『マイコンピュータ』をダブルクリックします。

2



1 選択

2 確認

[表示]メニューから[詳細]を選択します。
ここで表示されるドライブ名を確認します。
表示された各ドライブ名は、以降の手順で必要になりますので、メモしておいてください。
この画面の例では、ドライブ構成が次の様になっていることを示しています。

A: ハードディスクドライブ
B: フロッピーディスクドライブ
C: CD-ROMドライブ

ドライバのインストールを始める前に

⚠注意

- ・ 設定を行う前に、パソコンに本製品が正しく取り付けられていることを確認してください。
- ・ EPSON 98互換機では、EPSON版Windows95を使用してください。

本製品が正しく取り付けられていることを確認してから、パソコンの電源を入れます。

ドライバのインストールは、パソコンの環境によって手順が異なります。

あてはまるケースに従って作業を行ってください。

▼次へ

Windows98/95がセットアップ済みのパソコンにドライバをインストールするとき

「Windows98/95がセットアップ済みの場合」(P23)へ進みます。

Windows98/95をセットアップする途中でドライバも一緒にインストールするとき

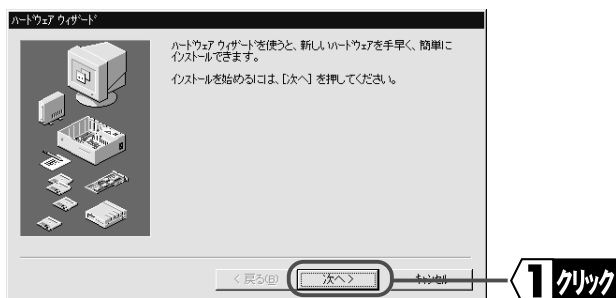
「本製品を取り付けてWindows98/95をセットアップした場合」(P25)へ進みます。

Windows98/95がセットアップ済みの場合

1 [スタート]-[設定]-[コントロール[®] パネル]を選択します。

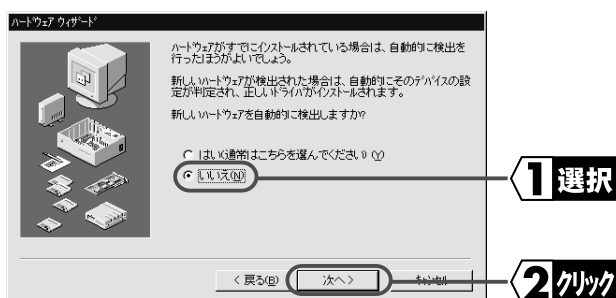
2 [コントロール[®] パネル]内の[ハードウェア]アイコン(Windows98の場合は[ハードウェアの追加])をダブルクリックします。

3 [次へ]をクリックします。

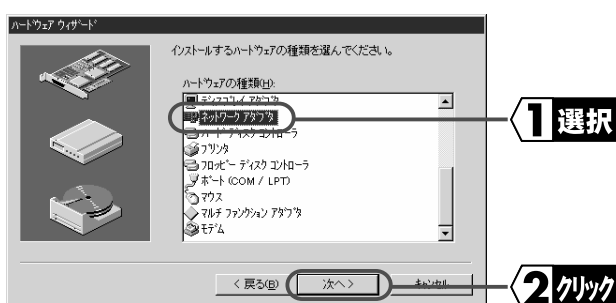


Windows98の場合は、手順3で[次へ]をクリックすると、「システムにあるプラグアンドプレイ機器を検索します。」というメッセージが表示されます。[次へ]をクリックします。

4 [いいえ]を選択し、[次へ]をクリックします。



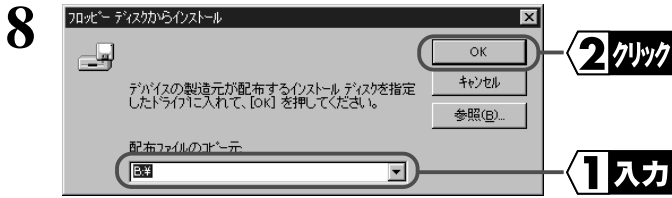
5 「ネットワークアダプタ」を選択し、[次へ]をクリックします。



6 「LAN Boardユーティリティ」をフロッピードライブに挿入します。

7 [ディスク使用]をクリックします。





「B:¥」（フロッピードライブがBドライブの場合）を入力し、[OK]をクリックします。

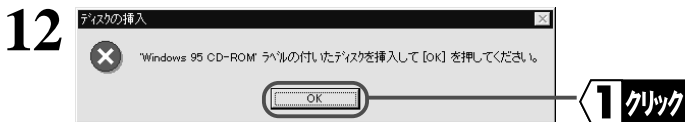
9 [MELCO LGY-98]を選択し、[OK]をクリックします。



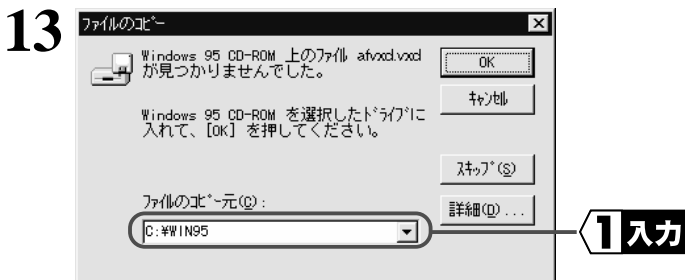
[次へ]をクリックします。

「Igy98.sysが見つかりません。」と表示されたときは、「ファイルの先」に「B:¥」（フロッピードライブがBドライブの場合）を入力して[OK]をクリックしてください。

11 Windows98または95のCD-ROMをCD-ROMドライブに挿入します。

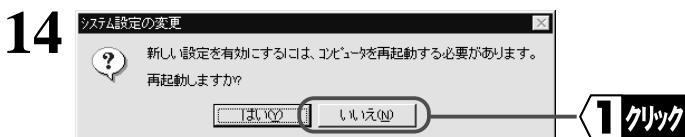


[OK]をクリックします。



[ファイルの先]に「C:¥WIN95」（CD-ROMドライブがCドライブの場合）（Windows98の場合はC:¥WIN98）を入力し、[OK]をクリックします。

メモ Windows95のプリインストールモデルで、CD-ROMドライブが搭載されていないパソコンをお使いのかたは、「A:¥WINDOWS¥OPTIONS¥CABS」（Windows95がAドライブにインストールされている場合）を入力してください。



[はい]をクリックします。

ドライバのインストールは完了です。

▼次へ 「本製品の設定」(P26)へ進みます。

本製品を取り付けてWindows98/95をセットアップした場合

本製品が「MELCO LGY-98」として認識されますが、以下の手順で新しいドライバを再インストールしてください。

- 1 [スタート]-[設定]-[コントロールパネル]を選択します。
- 2 [コントロールパネル]内の[システム]アイコンをダブルクリックします。


- 3  [デバイスマネージャ]タブをクリックします。

- 4  「ネットワークアダプタ」の下の「MELCO LGY-98」を選択し、[削除]をクリックします。

メモ 表示されていないときは「ネットワークアダプタ」の左の「+」をクリックすると表示されます。

- 1 選択
- 2 クリック

- 5 再起動後、「Windows98/95がセットアップ済みの場合」(P23)の手順でインストールします。


 次へ 「Windows98/95がセットアップ済みの場合」(P23)へ進みます。

本製品の設定

ドライバのインストールが完了したら、次の手順に従って、本製品の設定を行ってください。

- 1 [スタート]-[設定]-[コントロールパネル]を選択します。
- 2 [コントロールパネル]内の[システム]アイコンをダブルクリックします。


3



1 クリック

[デバイスマネージャ]タブをクリックします。

4




1 選択

2 クリック

「MELCO LGY-98」を選択し、[プロパティ]をクリックします。

メモ 表示されていないときは、「ネットワークアダプタ」の左の「+」をクリックすると表示されます。

5



1 クリック

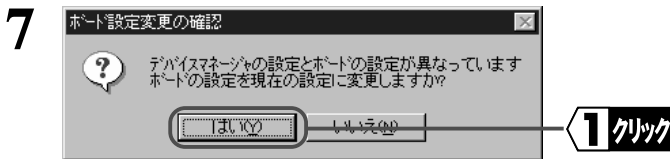
「ボードの選択」タブをクリックします。

注意 「ボードが見つかりません」と表示される場合は本製品が正常に挿入されていないか、I/Oポートの競合が考えられます。本製品が正常に挿入されている場合は、一旦、他の拡張ボードを外してみてください。

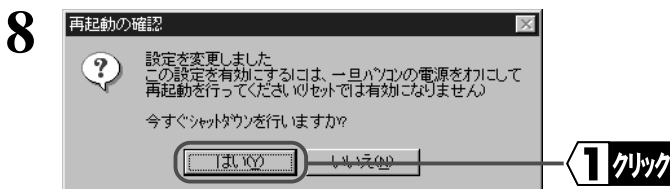
- ・複数枚のLGY-98Jを取り付けている場合は「イーサネットアドレス」の下向き矢印をクリックし、これから設定を行うLGY-98Jのイーサネットアドレスを選択してください。もし、取り付け枚数分のイーサネットアドレスが表示されない場合は、設定を行わないLGY-98Jをパソコンから外して設定を行ってください。
- ・LGY-98J-Mを使用している場合は、「接続ポート」でLANポートの設定を行います。(10BASE-T/10BASE2/10BASE5から1種類を選択)

6 [リソース]タブをクリックします。「競合するデバイス」が「競合なし」となるようにI/OポートとIRQを変更し、[OK]をクリックしてください。

注意 IRQが変更できないときは、「トラブルシューティング」(P67)を参照してください。



[はい]をクリックします。



[はい]をクリックし、パソコンの電源をOFFにします。再起動後、設定が有効になります。

メモ 本製品の設定変更後は、必ずパソコンの電源をOFFにしてください。再度電源投入時に設定が変更されます。リセットでは有効になりません。

メモ

- ・[スタート] - [設定] - [コントロールパネル] - [ネットワーク]で本製品のリソースを設定しても、本製品上の設定は変更されません。必ず上記の手順で設定してください。
- ・サウンドボードが組み込まれている場合、「ボードの選択」タブで「ボードが見つかりません」と表示されることがあります。この場合は、セーフモードで本製品の設定を行ってください。
 - 1.Windows95起動中に「Windows95を起動しています...」とメッセージが表示されますのですぐにキーボードの[F8]キーを押してください。
Windows98の場合は、[CTRL]を押しながら、電源をONにします。起動メニューが表示されるまで、[CTRL]を押しつづけます。
 - 2.Windows95の起動メニューが表示されます。「Safe モード」を選択し、Windows95を起動します。
 - 3.「本製品の設定」(P26)の手順で本製品の設定を変更してください。
- ・本製品の設定を変更したら、必ず「LANボード診断プログラム」(P63)を実行して本製品が正常に動作しているか確認してください。

再起動後に、「このDHCPクライアントはDHCPサーバからIPネットワークアドレスを取得できませんでした」と表示される場合は、次の手順で設定を変更してください。

- ・TCP/IPプロトコルを使用しない場合
「いいえ」をクリックします。
- ・TCP/IPプロトコルを使用する場合
ネットワーク管理者に相談の上、IPアドレスの設定を行ってください。

次へ

「ネットワークの設定例」(P28)へ進みます。

ネットワークの設定例

LANボードの設定が正常であることを確認したら、ネットワークを利用したデータの送受信を行ってみましょう。データの送受信をするためには、各パソコンについて設定が必要になります。ここでは、Peer to Peer接続をするためのネットワークの設定例について説明します。

▶参照 詳しくはWindows98または95に添付のファーストステップガイドを参照してください。

Peer to Peer接続をするための設定方法

Peer to Peer接続をするためには、全てのパソコンについて以下の設定が必要になります。

- ・「NetBEUI」、「Microsoftネットワーククライアント」の確認、「Microsoftネットワーク共有サービス」の追加
- ・コンピュータ名・ワークグループの確認
- ・パソコンの共有設定

「NetBEUI」、「Microsoftネットワーククライアント」の確認

- 1 [スタート]-[設定]-[コントロール パネル]を選択します。
- 2 [コントロールパネル]内の[ネットワーク]アイコンをダブルクリックします。
- 3 [ネットワーク]ダイアログボックスの[現在のネットワーク構成]に、「NetBEUI」と「Microsoft ネットワーク クライアント」が表示されていることを確認します。
また、Windows98をお使いのかたは、「優先的にログオンするネットワーク」が「Microsoft ネットワーククライアント」になっていることを確認します。

組み込まれているネットワークアダプタが本製品だけの場合



組み込まれているネットワークアダプタが複数の場合



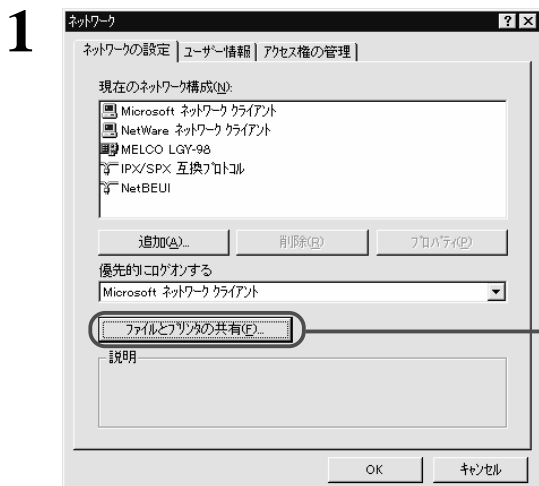
[現在のネットワーク構成]欄に、「NetBEUI ->MELCO LGY-98」と表示されますが、正常です。

▲注意 表示されていないとき

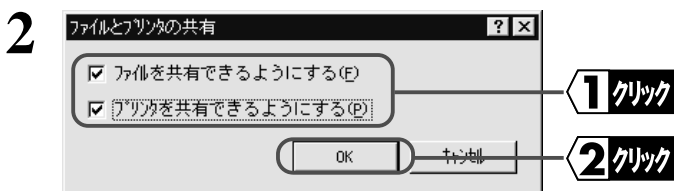
「Microsoftネットワーククライアント」の追加方法 (P33) および「NetBEUI」の追加方法 (P34) を参照して Microsoft ネットワーククライアントや NetBEUI を追加してください。

▶次へ 「Microsoftネットワーク共有サービス」の追加 (P29) へ進みます。

「Microsoft ネットワーク共有サービス」の追加



[ファイルとプリンタの共有]をクリックします。



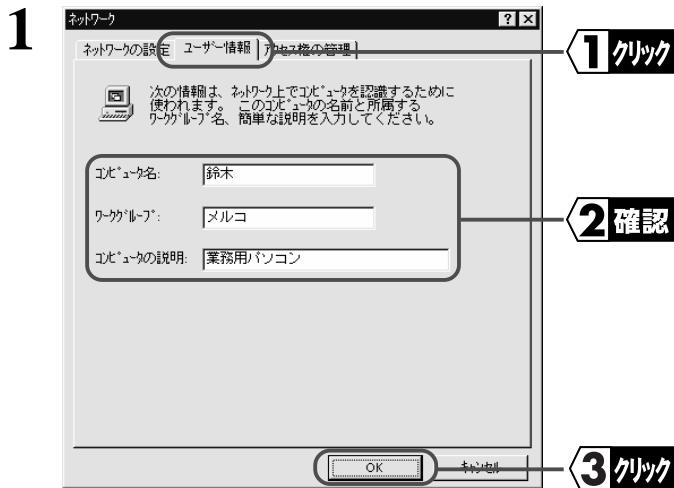
[ファイルを共有できるようにする]および[プリンタを共有できるようにする]のチェックボックスをクリックしてONにし、[OK]をクリックします。



[Microsoft ネットワーク共有サービス]が追加されます。

次へ 「コンピュータ名・ワークグループの確認」(P30)へ進みます。

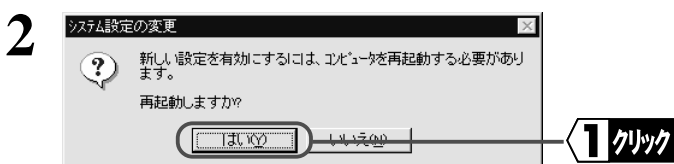
コンピュータ名・ワークグループの確認



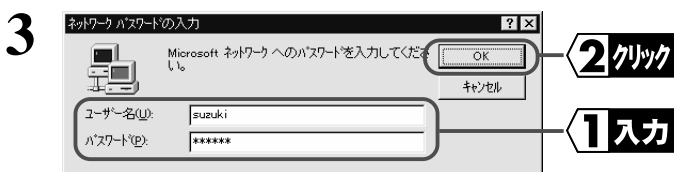
[ユーザー情報]タブ(Windows98の場合は、[識別情報]タブ)をクリックして、[コンピュータ名]、[ワークグループ]、および[コンピュータの説明]を確認し、[OK]をクリックします。

注意 ワークグループ名は、Peer to Peer 接続する全てのパソコンに同じ名前を設定してください。

参照 [コンピュータ名]、[ワークグループ]、[コンピュータの説明]の詳細説明については、「用語集」(P64)を参照してください。



[はい]をクリックすると、Windows95が再起動され、「ネットワークパスワードの入力」画面が表示されます。



「ユーザー名」と「パスワード」を入力し、[OK]をクリックします。

注意 「ユーザー名」「パスワード」は毎回必ず入力してください。入力しないとネットワークを使用できません。

▶次へ 「パソコンの共有設定」(P31)へ進みます。

パソコンの共有設定

ドライブやフォルダの共有を設定します。ここでは、[マイ コンピュータ]の中のAドライブを共有するときの手順を例に説明します。

- 1 デスクトップ上の[マイ コンピュータ]アイコンをダブルクリックします。



Aドライブのアイコンをマウスの右ボタンでクリックし、メニューから[共有]を選択します。



[共有する]のオプションボタンをクリックし、「共有名」「コメント」「アクセス権の種類」「パスワード」を確認または変更し、[OK]をクリックします。

▶参照 「共有名」、「コメント」、「アクセス権の種類」、「パスワード」の詳細説明については、「用語集」(P71)を参照してください

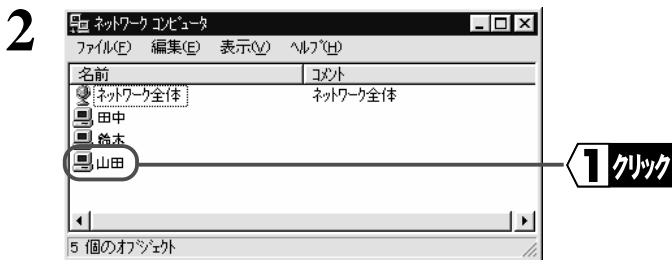


Aドライブのアイコンが画面のようになります。

▶次へ 「他のパソコンへの接続」(P32)へ進みます。

他のパソコンへの接続

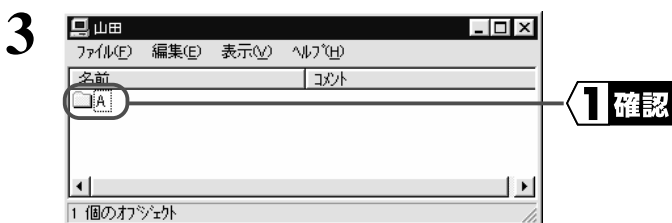
- 1 [ネットワーク コンピュータ]アイコンをダブルクリックします。
Peer to Peer接続されているパソコンが表示されます。



接続したいパソコンをダブルクリックします。

▲注意

- 接続したいパソコンが表示されないときは、「トラブルシューティング」(P67)を参照してください。
- PC-9821 Xシリーズ、Vシリーズ(VALESTAR)をお使いのかたで、他のパソコンに接続できないときは、「トラブルシューティング」(P67)を参照してください。



共有設定で、設定されたドライブが表示されます。



上記のドライブをダブルクリックすると、ドライブの中身が表示され、アクセスが可能になります。

▼次へ LANボードの設定は、全て完了です。
ネットワークを利用した快適な環境でパソコンをお使いください。

「Microsoftネットワーククライアント」の追加方法

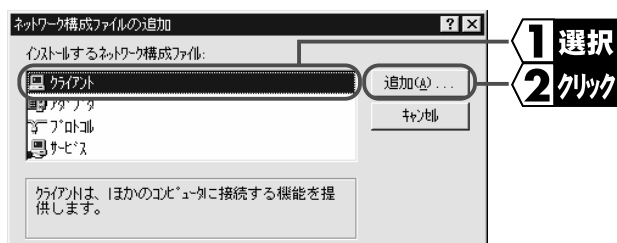
1 [スタート]-[設定]-[コントロール パネル]-[ネットワーク]を選択します。

2



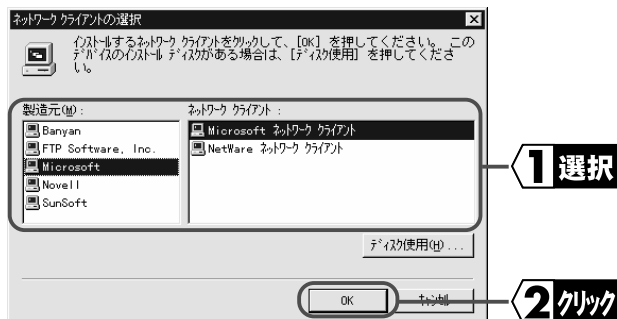
[追加]をクリックします。

3



[クライアント]を選択し、[追加]をクリックします。

4



[製造元]に「Microsoft」を、[ネットワークプロトコル]に「Microsoft ネットワーククライアント」を選択し、[OK]をクリックすると、手順2の画面に戻ります。

次へ 「「NetBEUI」、「Microsoftネットワーククライアント」の確認」(P28)へ進みます。

3

「NetBEUI」の追加方法

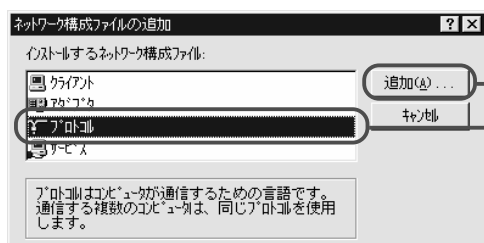
1 [スタート]-[設定]-[コントロール パネル]-[ネットワーク]を選択します。

2



[追加]をクリックします。

3



[プロトコル]を選択し、[追加]をクリックします。

4



[製造元]に「Microsoft」を、[ネットワークプロトコル]に「NetBEUI」を選択し、[OK]をクリックすると、手順2の画面に戻ります。

次へ 「「NetBEUI」、「Microsoftネットワーククライアント」の確認」(P28)へ進みます。



MACアドレスを確認するには

TCP/IPプロトコルがインストールされている場合は、以下の手順でMACアドレスの確認ができます。

- 1 [スタート]-[ファイル名を指定して実行]を選択します。
- 2 [WINIPCFG.EXE]と入力し、[OK]をクリックします。
『IP設定』ダイアログボックスが表示されます。



MACアドレスは、「アダプタアドレス」に表示されています。

4

Windows NT 4.0 環境での設定

ご使用の環境がWindows NT 4.0の場合は、以下の手順に従って、本製品の設定を行ってください。

本製品を複数枚使用するかたへ

Windows NT 4.0で本製品を複数枚装着して使用する場合は、次の通りです。

注意 本製品を複数枚装着した状態で、Windows NTのコントロールパネルから、I/Oポートアドレス・IRQを変更、表示しないでください。本製品が動作しなくなる場合があります。
I/Oポートアドレス・IRQの設定確認は、「本製品の動作確認」(P42)で行ってください。

- 1 「本製品の取り付け」(P13)に従って、本製品を1枚だけパソコンに取り付けます。
- 2 Windows NTを起動し、「ドライバのインストール」(P37)に従ってドライバをインストールします。続いて、IRQ、およびI/Oポートアドレスを変更します。
変更した値は、メモしてください。ここでメモした値は、2枚目の設定で必要になります。
<例> IRQ:3、I/Oポートアドレス:10D0h
- 3 パソコンの電源をOFFにし、手順1で取り付けした本製品を取り外します。
- 4 「本製品の取り付け」(P13)に従って、2枚目の本製品をパソコンに取り付けます。
- 5 Windows NTを起動し、「ドライバのインストール」(P37)に従ってドライバをインストールします。続いて、IRQ、およびI/Oポートアドレスを変更します。
IRQ、およびI/Oポートアドレスは、手順2でメモした値と異なる値に変更してください。
<例> IRQ:5、I/Oポートアドレス:20D0h

本製品	IRQ	I/Oポートアドレス	備考
1枚目	3	10D0h	手順2で変更済み
2枚目	5	20D0h	1枚目と異なる値を設定すること

- 6 パソコンの電源をOFFにし、手順4で取り付けした本製品を取り外します。

本製品を3枚以上取り付けるかたは、手順4から6を繰り返してください。
IRQ、およびI/Oポートアドレスは、各ボード毎に異なる値にしてください。

- 7 全ての本製品をパソコンに取り付けます。
- 8 Windows NTを再起動します。
全ての本製品が使用可能になります。

ドライバのインストール

ドライバのインストールを始める前に

⚠注意

- ・ 設定を行う前に、パソコンに本製品が正しく取り付けられていることを確認してください。
- ・ EPSON98互換機での動作保証はできません。

ドライバのインストールは、パソコンの環境によって手順が異なります。
あてはまるケースに従って作業を行ってください。

▶次へ

WindowsNT4.0がセットアップ済みのパソコンにドライバをインストールするとき
「WindowsNT4.0がセットアップ済みの場合」(P37)へ進みます。
WindowsNT4.0をセットアップする途中でドライバも一緒にインストールするとき
「WindowsNT4.0がセットアップ途中の場合」(P41)へ進みます。

WindowsNT4.0がセットアップ済みの場合

WindowsNT4.0のセットアップが済んでいるときは、初めてドライバをインストールするか否かによりドライバのインストール方法が異なります。

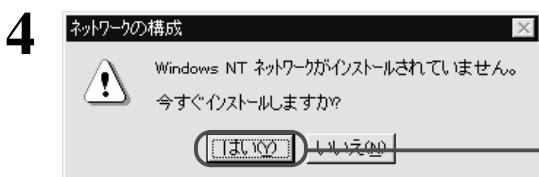
▶次へ

初めてドライバをインストールするとき
「初めてドライバをインストールする場合」(P37)へ進みます。
一度でも他のドライバをインストールしたことがあるとき
「一度でも他のドライバをインストールしたことがある場合」(P39)へ進みます。

初めてドライバをインストールする場合

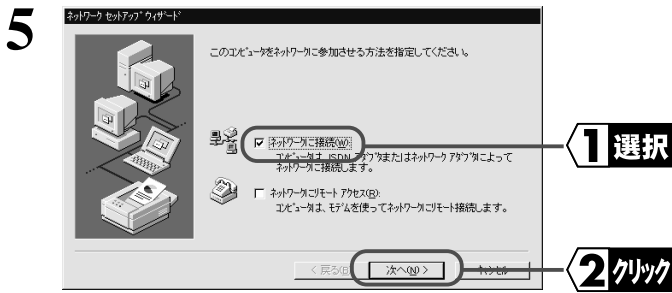
WindowsNT4.0のセットアップが済んでいて、初めてドライバをインストールするときは、次の手順に従ってください。

- 1 WindowsNT4.0を起動し、「administrator」でログオンします。
- 2 [スタート]-[設定]-[コントロール 板]を選択します。
- 3 [ネットワーク]アイコンをダブルクリックします。



[はい]をクリックします。「ネットワークセットアップの準備をしています」と表示されます。

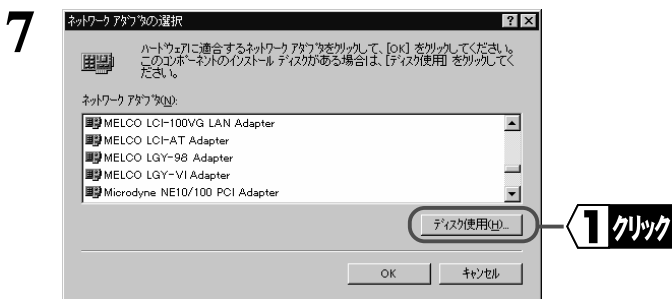
⚠注意 この画面が表示されないときは、「一度でも他のドライバをインストールしたことがある場合」(P39)の手順4へ進んでください。



「ネットワークに接続」を選択し、[次へ]をクリックします。

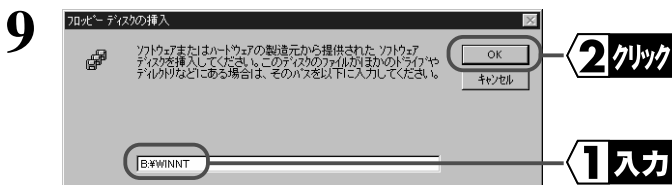


[一覧から選択]をクリックします。

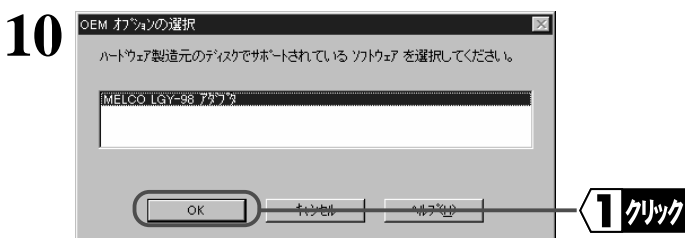


[ディスク使用]をクリックします。

8 「LAN Boardユーティリティ」をフロッピードライブに挿入します。



「B:¥WINNT」(フロッピードライブがBドライブの場合)を入力し、[OK]をクリックします。

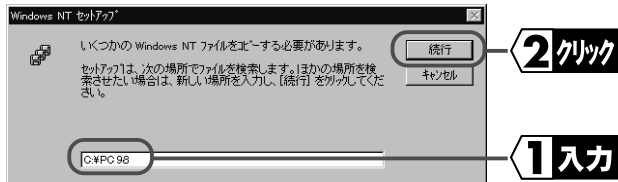


[OK]をクリックします。

11 現在の本製品の設定 (IRQレベル、I/Oポートアドレス)が表示されます。内容を確認し、[続行]をクリックします。このとき、「このIRQレベル(I/Oポートアドレス)は他のボードが使用しています。別の値を選択してください。」と表示された場合は、重複しない値に設定を変更してください。

12 WindowsNTのCD-ROMをCD-ROMドライブに挿入します。

13



「C:\PC98」(CD-ROMドライブがCドライブの場合)を入力し、[続行]をクリックします。

以後は、画面の指示に従ってインストール作業を行ってください。

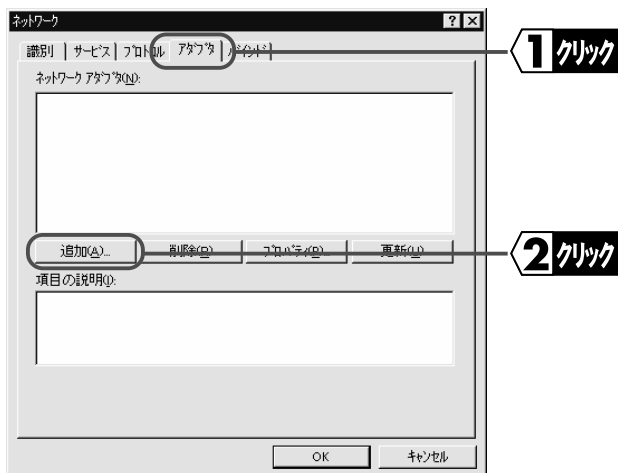
▼次へ 「本製品の動作確認」(P42)へ進みます。

一度でも他のドライバをインストールしたことがある場合

WindowsNT4.0のセットアップが済んでいて、一度でも他のドライバをインストールしたことがあるときは、次の手順に従ってください。

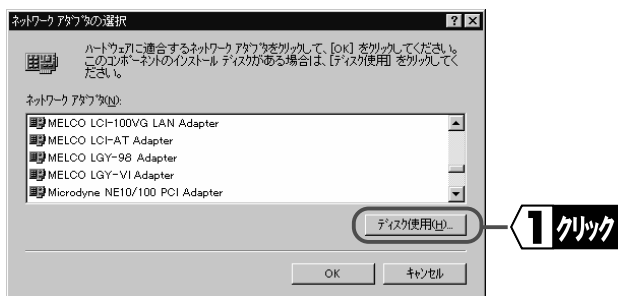
- 1 WindowsNT4.0を起動し、「administrator」でログオンします。
- 2 [スタート]-[設定]-[コントロールパネル]を選択します。
- 3 [ネットワーク]アイコンをダブルクリックします。

4



[アダプタ]タブをクリックし、[追加]をクリックします。

5



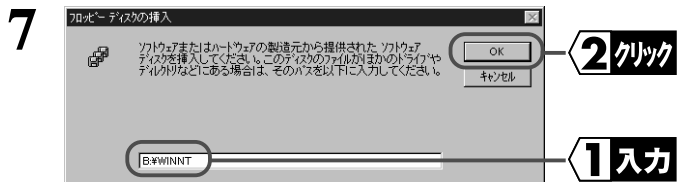
[ディスク使用]をクリックします。

6

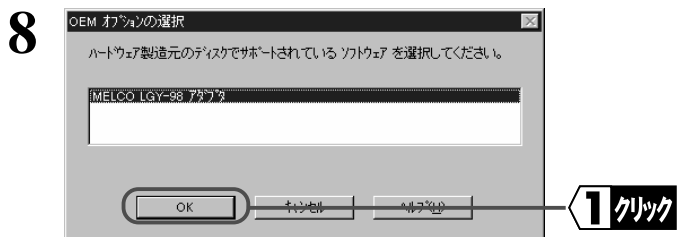
「LAN Boardユーティリティ」をフロッピードライブに挿入します。

4

WindowsNT4.0環境での設定



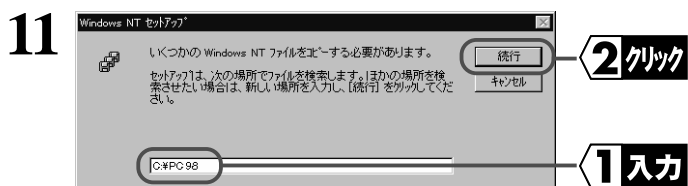
「B:¥WINNT」(フロッピードライブがBドライブの場合)を入力し、[OK]をクリックします。



[OK]をクリックします。

9 現在の本製品の設定 (IRQレベル、I/Oポートアドレス)が表示されます。内容を確認し、[続行]をクリックします。このとき、「このIRQレベル(I/Oポートアドレス)は他のボードが使用しています。別の値を選択してください。」と表示された場合は、重複しない値に設定を変更してください。

10 WindowsNTのCD-ROMをCD-ROMドライブに挿入します。



「C:¥PC98」(CD-ROMドライブがCドライブの場合)を入力し、[続行]をクリックします。

以後は、画面の指示に従ってインストール作業を行ってください。

▶次へ 「本製品の動作確認」(P42)へ進みます。

WindowsNT4.0がセットアップ途中の場合

WindowsNT4.0をセットアップする途中でドライバも一緒にインストールするときは、以下の項目を参照してください。セットアップの手順については、WindowsNTに付属のマニュアルを参照してください。

ドライバの選択

ドライバ名称「MELCO LGY-98 アダプタ」を指定してください。

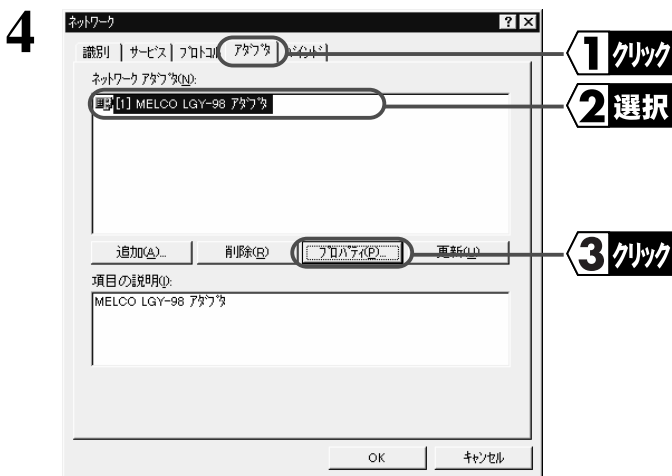
ドライバの指定方法は、「初めてドライバをインストールする場合」(P38)の手順6から11を参照してください。

▼次へ 「本製品の動作確認」(P42)へ進みます。

本製品の設定を変更するときは

注意 本製品をパソコンに複数枚装着しているときは、以下の手順を行わないでください。複数枚装着している場合の設定変更は、本製品をパソコンに1枚ずつ取り付けて設定してください。

- 1 WindowsNT4.0を起動し、「administrator」でログオンします。
- 2 [スタート]-[設定]-[コントロールパネル]を選択します。
- 3 [ネットワーク]アイコンをダブルクリックします。



[アダプタ]タブをクリックします。
[MELCO LGY98 アダプタ]を選択し、[プロパティ]をクリックします。

- 5 現在の本製品の設定 (IRQレベル、I/Oポートアドレス)が表示されます。必要に応じて各リソースの設定を変更し、[OK]をクリックします。このとき、「このIRQレベル(I/Oポートアドレス)は他のボードが使用しています。別の値を選択してください。」と表示された場合は、重複しない値に設定を変更してください。
- 6 パソコンの電源をOFFにします。
次回パソコンの電源をONにすると、変更した値が有効になります。

注意 本製品の設定を変更したときは、必ず画面のメッセージに従ってシャットダウンを行い、パソコンの電源を一度OFFにしてください。電源をOFFにせずにパソコンをリセットすると、本製品の変更が有効にならない場合があります。

本製品の動作確認

本製品が正しく設定されているかどうかは、WindowsNT診断プログラムで確認できます。
次の手順で確認してください。

- 1 [スタート]-[プログラム(P)]-[管理ツール]-[WindowsNT診断プログラム]を選択します。
- 2 [リソース]タブをクリックします。
- 3 [デバイス]をクリックします。
- 4 [デバイスの一覧]から[LGY98]を選択し、[プロパティ]をクリックします。



「I/O範囲」、「割り込み要求」が表示されている場合は正常です。

値が表示されないときやデバイスの一覧に[LGY98]が表示されない場合は、リソースの設定を変更してください。また、本製品が正しく取り付けられているか確認してください。



MACアドレスを確認するには

以下の手順でMACアドレスの確認ができます。

- 1 [スタート] - [プログラム] - [管理ツール] - [WindowsNT診断プログラム]を選択します。
- 2 「ネットワーク」タブをクリックして[トランスポート]をクリックします。



MACアドレスは、「アドレス」に表示されています。

ご使用の環境がWindowsNT3.51/3.5の場合は、以下の手順に従って、本製品の設定を行ってください。

本製品を複数枚使用するかたへ

WindowsNT3.51/3.5で本製品を複数枚装着して使用する場合は、次の通りです。

▲注意 本製品を複数枚装着した状態で、WindowsNTのコントロールパネルから、I/Oポートアドレス・IRQを変更、表示しないでください。本製品が動作しなくなる場合があります。
I/Oポートアドレス・IRQの設定確認は、「本製品の動作確認」(P47)で行ってください。

- 1 「本製品の取り付け」(P13)に従って、本製品を1枚だけパソコンに取り付けます。
- 2 WindowsNTを起動し、「ドライバのインストール」(P44)に従ってドライバをインストールします。続いて、IRQ、およびI/Oポートアドレスを変更します。
変更した値は、メモしてください。ここでメモした値は、2枚目の設定で必要になります。
<例> IRQ:3、I/Oポートアドレス:10D0h
- 3 パソコンの電源をOFFにし、手順1で取り付けした本製品を取り外します。
- 4 「本製品の取り付け」(P13)に従って、2枚目の本製品をパソコンに取り付けます。
- 5 WindowsNTを起動し、「ドライバのインストール」(P44)に従ってドライバをインストールします。続いて、IRQ、およびI/Oポートアドレスを変更します。
IRQ、およびI/Oポートアドレスは、手順2でメモした値と異なる値に変更してください。
<例> IRQ:5、I/Oポートアドレス:20D0h

本製品	IRQ	I/Oポートアドレス	備考
1枚目	3	10D0h	手順2で変更済み
2枚目	5	20D0h	1枚目と異なる値を設定すること

- 6 パソコンの電源をOFFにし、手順4で取り付けした本製品を取り外します。

本製品を3枚以上取り付けるかたは、手順4から6を繰り返してください。
IRQ、およびI/Oポートアドレスは、各ボード毎に異なる値にしてください。

- 7 全ての本製品をパソコンに取り付けます。
- 8 WindowsNTを再起動します。
全ての本製品が使用可能になります。

ドライバのインストール

ドライバのインストールを始める前に

⚠注意

- ・ 設定を行う前に、パソコンに本製品が正しく取り付けられていることを確認してください。
- ・ EPSON98互換機での動作保証はできません。

ドライバのインストールは、パソコンの環境によって手順が異なります。
あてはまるケースに従って作業を行ってください。

▼次へ


WindowsNT3.51/3.5がセットアップ済みのパソコンにドライバをインストールするとき
「WindowsNT3.51/3.5がセットアップ済みの場合」(P44)へ進みます。
WindowsNT3.51/3.5をセットアップする途中でドライバも一緒にインストールするとき
「WindowsNT3.51/3.5がセットアップ途中の場合」(P45)へ進みます。

WindowsNT3.51/3.5がセットアップ済みの場合

WindowsNT3.51/3.5のセットアップが済んでいるときは、次の手順に従ってください。

- 1 WindowsNT3.51/3.5を起動し、「administrator」でログオンします。
- 2 [コントロールパネル]をダブルクリックします。
- 3 [ネットワーク]アイコンをダブルクリックします。

4



ネットワークの設定

コンピュータ名: XXXXXX 変更(O)...

ワークグループ: XXXXXX 変更(G)...

ネットワーク ソフトウェアとアダプタ カード

組み込まれているネットワーク ソフトウェア(W):

- NetBIOS インターフェイス
- NetWare クライアント サービス
- NWLink IPX/SPX 互換トランスポート
- NWLink NetBIOS
- RPC 構成

ソフトウェアの追加(S)... OK

アダプタ カードの追加(A)... キャンセル

組み込まれているアダプタ カード(A):

構成(C)... ハイライト(H)...

更新(U) ネットワーク(N)...

削除(D) ヘルプ(H)

説明(I):

[アダプタカードの追加]をクリックします。

5



ネットワーク アダプタの追加

ネットワーク アダプタ カード(N):

続ける 2 クリック

キャンセル

ヘルプ(H)

1 選択

<その他> 各メーカーのディスクが必要

Ungermann-Bass Ethernet NIUpc アダプタ

Ungermann-Bass Ethernet NIUpc/EOTIP アダプタ

WaveLAN ISA Bus Adapter

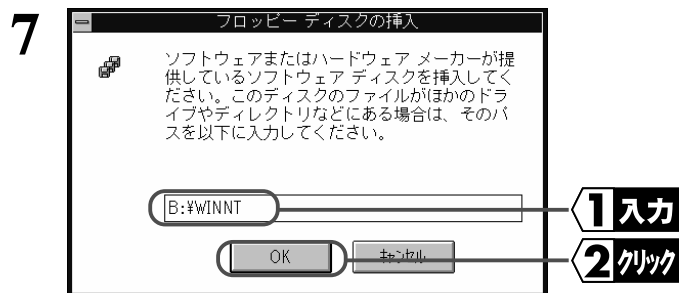
Xircom Pocket Ethernet II

Xircom Pocket Ethernet III

<その他> 各メーカーのディスクが必要

[<その他> 各メーカーのディスクが必要]を選択し、[続ける]をクリックします。

- 6 「LAN Boardユーティリティ」をフロッピードライブに挿入します。



「B:¥WINNT」(フロッピードライブがBドライブの場合)と入力し、[OK]をクリックします。



選択されているドライバが「MELCO LGY-98アダプタ」であることを確認して、[OK]をクリックします。

- 9 現在の本製品の設定 (IRQレベル、I/Oポートアドレス)が表示されます。内容を確認し、[続行]をクリックします。このとき、「このIRQレベル(I/Oポートアドレス)は他のボードが使用しています。別の値を選択してください。」と表示された場合は、重複しない値に設定を変更してください。

以後は、WindowsNT3.51/3.5付属のマニュアルを参照して、インストール作業を行ってください。

▼次へ 「本製品の動作確認」(P47)へ進みます。

WindowsNT3.51/3.5がセットアップ途中の場合

WindowsNT3.51/3.5をセットアップする途中でドライバも一緒にインストールするときは、以下の項目を参照してください。セットアップの手順については、WindowsNTに付属のマニュアルを参照してください。

ドライバの選択

ドライバ名称「MELCO LGY-98アダプタ」を指定してください。

ドライバの指定方法は、「WindowsNT3.51/3.5がセットアップ済みの場合」(P44, 45)の手順5から9を参照してください。

▼次へ 「本製品の動作確認」(P47)へ進みます。

本製品の設定を変更するときは

△注意 本製品をパソコンに複数枚装着しているときは、以下の手順を行わないでください。複数枚装着している場合の設定変更は、本製品をパソコンに1枚ずつ取り付けて設定してください。

- 1 WindowsNT3.51/3.5を起動し、「administrator」でログオンします。
- 2 [スタート]-[設定]-[コントロールパ^ル]を選択します。
- 3 [ネットワーク]アイコンをダブルクリックします。



[MELCO LGY98 アダプタ]を選択し、[構成]をクリックします。

- 5 現在の本製品の設定 (IRQレベル、I/Oポートアドレス)が表示されます。必要に応じて各リソースの設定を変更し、[OK]をクリックします。このとき、「このIRQレベル(I/Oポートアドレス)は他のボードが使用しています。別の値を選択してください。」と表示された場合は、重複しない値に設定を変更してください。
- 6 パソコンの電源をOFFにします。
次回パソコンの電源をONにすると、変更した値が有効になります。

△注意 本製品の設定を変更したときは、必ず画面のメッセージに従ってシャットダウンを行い、パソコンの電源を一度OFFにしてください。電源をOFFにせずにパソコンをリセットすると、本製品の変更が有効にならない場合があります。

本製品の動作確認

本製品が正しく設定されているかどうかは、WindowsNT診断プログラムで確認できます。
次の手順で確認してください。

- 1 [プログラムマネージャ]の中の[管理ツール]にある[WindowsNT診断プログラム]アイコンをダブルクリックします。
- 2 「WindowsNT診断プログラム」が起動したら、「デバイス」をクリックします。
- 3 デバイスの一覧から「LGY98」を選択して[デバイスの詳細]をクリックします。



値が表示されないときやデバイスの一覧に[LGY98]が表示されない場合は、リソースの設定を変更してください。また、本製品が正しく取り付けられているか確認してください。

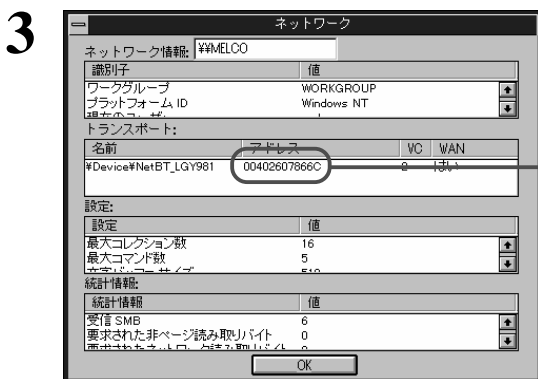
5



MACアドレスを確認するには

以下の手順でMACアドレスの確認ができます。

- 1 [プログラムマネージャ]の中の[管理ツール]にある[WindowsNT診断プログラム]アイコンをダブルクリックします。
- 2 「ネットワーク」をダブルクリックします。



MACアドレスは、[トランスポート]の「アドレス」に表示されています。

6

Windows3.1/DOS環境での設定

ご使用の環境がWindows3.1/DOSの場合は、次の手順に従って本製品の設定を行ってください。

本製品の設定

Windows3.1がセットアップされているパソコンでも、DOSプロンプト上で設定を行います。

▲注意

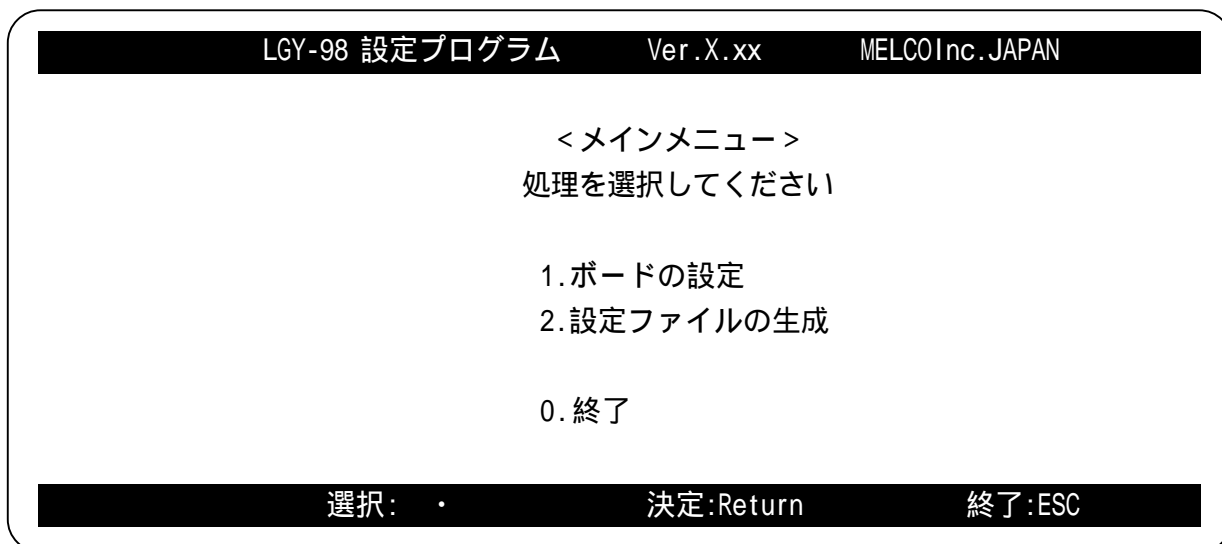
- ・ 設定を行う前に、パソコンに本製品が正しく取り付けられていることを確認してください。
- ・ 1台のパソコンに本製品を複数枚取り付けて使用するときは、次の手順に従ってください。
 - 1枚目の本製品を取り付け、本製品の設定をします。1枚目の本製品を取り外します。
 - 2枚目の本製品を取り付け、本製品の設定をします。2枚目の本製品を取り外します。
 - 3枚以上の本製品を取り付けるときは、手順 ① の作業を繰り返してください。全ての本製品を取り付けます。パソコンの電源をONにします。
- ・ 本製品をノートパソコンに組み込んでお使いになるときは、パワーセーブモードやレジューム機能を使用しないでください。
- ・ 本製品が正しく取り付けられているにも関わらず、LANボード設定プログラム起動時に「...ボードが装着されていません。」のメッセージが表示されるときは、パソコンに取り付けられている他の拡張ボードとI/Oポートアドレスが重複していることが考えられます。このときは、他のボード(またはポート)が使用するI/Oポートアドレスを変更するか、一度他の拡張ボードを取り外してから本製品のI/Oポートアドレスを変更してください。


1 パソコンの電源をONにし、Windows3.1が起動する場合はWindows3.1を終了して、DOSプロンプトの状態にします。

2 「LAN Boardユーティリティ」をフロッピードライブに挿入し、次のように入力します。
(フロッピードライブがBドライブの場合)


B: ¥>LGYSETUP 

3 LANボード設定プログラムのメインメニューが表示されたら、【1. ボードの設定】を選択します。





- 4 リソース(I/Oポートアドレス、割り込みレベル)の設定内容が表示されます。
- 5 設定したいリソースの内容(I/Oポートアドレス、割り込みレベル)にカーソルを合わせて、を押します。

LGY-98 設定プログラム		Ver. X.xx	MELCO Inc. JAPAN								
<p>< ボードの設定 > 設定変更する項目を選択してください。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 25%;">ボードの番号</td> <td style="width: 25%;">I/Oポートアドレス</td> <td style="width: 25%;">割り込みレベル</td> <td style="width: 25%;">コネクタ選択</td> </tr> <tr> <td>ボード1</td> <td>00D0h</td> <td>INT 0</td> <td>10BASE2</td> </tr> </table>				ボードの番号	I/Oポートアドレス	割り込みレベル	コネクタ選択	ボード1	00D0h	INT 0	10BASE2
ボードの番号	I/Oポートアドレス	割り込みレベル	コネクタ選択								
ボード1	00D0h	INT 0	10BASE2								

- 6 ポップアップウィンドウに値の一覧が表示されます。変更したい値にカーソルを合わせて を押します。選択できないリソースの値は他のデバイスが使用しています。選択できる範囲は次のとおりです。
 - ・ I/Oポートアドレス 00D0h / 10D0h / 20D0h / 30D0h / 40D0h / 50D0h / 60D0h / 70D0h
 - ・ 割り込みレベル(INT) 0 / 1 / 2 / 5 (LGY-98J-N2/NTでは、INT 2は使用不可です。)
 - ・ コネクタ選択 10BASE2 10BASE5 10BASE-T

▲注意 「コネクタ選択」は、LGY-98J-Mのみ表示されます。

割り込みレベル	INT 0	INT 1	INT 2	INT 5
割り込み番号	IRQ 3	IRQ 5	IRQ 6	IRQ 12


- 7 設定が終了したら を押します。任意のキーを押すとメインメニューに戻ります。
- 8 を押してLANボード設定プログラムを終了します。
- 9 パソコンの電源を一度OFFにします。再度電源をONにすると設定が有効になります。
- 10 「LANボード診断プログラム」(P63)を実行し、設定が正しく行われているかどうか確認してください。
 設定が正しく行われていれば、本製品の設定は完了です。正しく行われていない場合は、手順 1から設定をやり直してください。

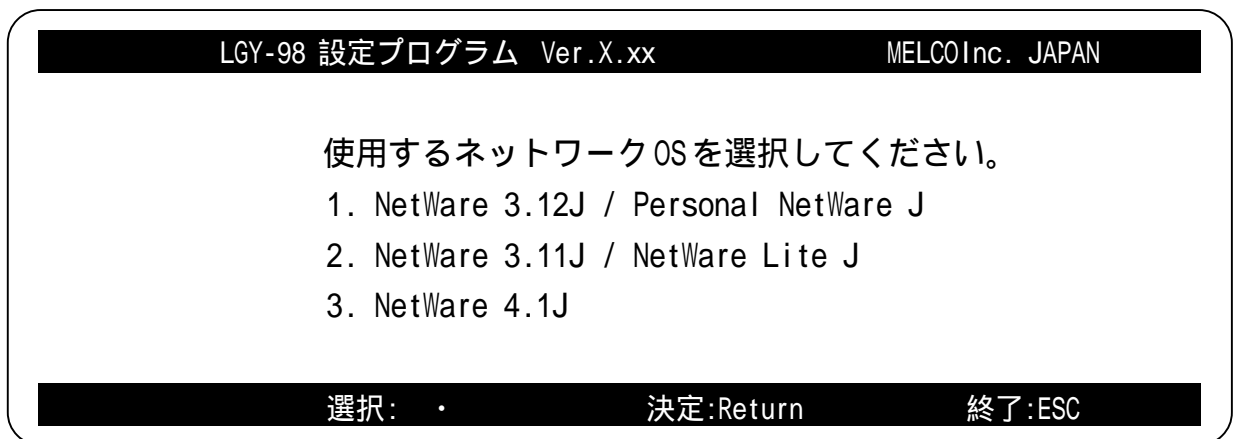
設定ファイルの生成


本製品を次のネットワークOSで使用する場合は、本製品の設定後にネットワークOSドライバの設定ファイル(LGY98.INSおよびNET.CFG)を生成する必要があります。

- NetWare 4.1J / 3.12J / 3.11J のクライアント(ODIドライバ)
- NetWare Lite J
- Personal NetWare J

注意 設定ファイルの生成時には、「LAN Board ユーティリティ」にデータの書き込みを行います。「LAN Board ユーティリティ」は必ずバックアップを作成し、作業にはバックアップしたディスクを使用してください。バックアップしたディスクは、書き込み可の状態にしておいてください。

- 1 LANボード設定プログラムのメインメニューから、[2. 設定ファイルの生成]を選択します。
- 2 次の画面が表示されます。使用するネットワークOSを選択して  を押します。



- 3 現在の本製品の設定内容が表示されます。
- 4 書き込み先のパス名を入力するウィンドウが開きます。カレントドライブ・ディレクトリが表示されるので、そのまま  を押します。
- 5 書き込みが完了すると、「設定ファイルを生成しました」とメッセージが表示されます。
- 6 任意のキーを押して、メインメニューに戻ります。
- 7 [0. 終了] を選択して、プログラムを終了します。

NET.CFG ファイルについて

NET.CFGファイルは、ODIドライバの動作環境を定義するテキストファイルです。
本製品の設定に関する情報を記述します。記述方法と例は次の通りです。

LINK DRIVER ドライバ名

本製品の設定情報を記述するセクションの見出しです。必ず行の先頭桁から記述してください。
ドライバ名は、「LGY98」と記述してください。

オプション

ドライバのデフォルト設定を変更するための記述です。オプションはセクション行の下に記述し、行の先頭にはスペースかタブを必ず挿入してください。

文字列の直前に半角のセミコロン(;)がある行は、コメントとして扱われます。

「INT」

割り込み番号 (IRQ) を指定します。(出荷時設定値:3)

~~メモ~~ 割り込みレベル (INT) と割り込み番号 (IRQ) の関係は次のようになっています。

割り込みレベル	INT 0	INT 1	INT 2	INT 5
割り込み番号	IRQ 3	IRQ 5	IRQ 6	IRQ 12

「Port」

I/Oポートアドレスを16進数で指定します。(出荷時設定値:00D0h)

「FRAME」

ボードで使用するフレームタイプを指定します。フレームのタイプはNetWareサーバなどの接続先のコンピュータ側で設定されているものに合わせてください。NetWare3.11Jでは、フレームのタイプのデフォルトは802.3です。設定の際には注意してください。

指定できるフレームタイプは次の通りです。

Ethernet_802.2/Ethernet_802.3/Ethernet_II/Ethernet_SNAP

< 記述例 >

```
LINK DRIVER LGY98
  INT 3
  PORT 00D0
  FRAME Ethernet_802.2
```

NetWare 4.1Jクライアント

NetWare 4.1Jクライアントのセットアップと同時にドライバをインストールする手順を説明します。
「NetWare 4.1Jインストールマニュアル」も併せて参照してください。






ドライバのインストール手順

- 1 MS-DOSプロンプトで以下のコマンドを実行します。
SET NWLANGUAGE=NIHONGO
- 2 NetWare 4.1Jに添付されている「NetWare 4.1J NetWare Client for DOS and MS-WINDOWS Disk1 PC-9800」のディスクをフロッピードライブに挿入し、「INSTALL.EXE」を起動します。
- 3 画面に表示されている手順に従って、ステップ1～4を実行します。
- 4 ステップ5の[ネットワークボードのドライバを選択してください]を選択し、を押します。
『ネットワークボードの一覧』が表示されます。
- 5 「LAN Boardユーティリティ」をフロッピードライブに挿入し、[他のドライバ]を選択します。
『ドライバ ディスクの挿入』画面が表示されます。
- 6 パス名に「B:¥」(フロッピードライブがBドライブの場合)と入力し、を押します。
『ドライバー一覧』が表示されます。
- 7 [MELCO LGY-98]を選択し、を押します。
- 8 必要に応じて[設定]を変更し、を押します。
- 9 ステップ6を選択し、を押します。
以降の操作は、NetWare 4.1J付属のマニュアルを参照してセットアップを続けてください。

NetWare 3.12Jクライアント

NetWare 3.12Jクライアントのセットアップと同時にドライバをインストールする手順を説明します。
「NetWare 3.12Jインストールマニュアル」も併せて参照してください。

ドライバのインストール手順

- 1 NetWare 3.12Jに添付されている「NetWare 3.12J WSDOS_1 NEC」をフロッピードライブに挿入し、「WSINST.BAT」を起動します。
- 2 画面に表示されている手順に従って、ステップ1～4を実行します。
- 3 ステップ5の「ネットワークボードのドライバを選択してください」を選択し、を押します。
- 4 「LAN Boardユーティリティ」をフロッピードライブに挿入します。
- 5 パス名に「B:¥」(フロッピードライブがBドライブの場合)を入力し、を押します。
ドライバー一覧が表示されます。
- 6 「MELCO LGY-98」を選択し、を押します。
- 7 必要に応じて「設定」を変更し、を押します。
- 8 ステップ6を選択し、を押します。
以降の操作は、NetWare 3.12J付属のマニュアルを参照してセットアップを続けてください。

NetWare 4.1Jサーバ

NetWare 4.1Jサーバのセットアップと同時にドライバをインストールする手順を説明します。
「NetWare 4.1Jインストールマニュアル」も併せて参照してください。

△注意 NetWare4.1Jサーバドライバをインストールする前に、本製品のリソースが競合していないか確かめてください。リソースが競合している場合は、本製品の設定を変更してから作業を行ってください。

ドライバのインストール手順

- 1 サーバのインストール中に「ネットワークドライバの選択」の画面が表示されたら **[INS]** を押し、「リストにないドライバのインストール」を選択します。
 - 2 フロッピードライブに「LAN Boardユーティリティ」を挿入し、**[F3]** を押します。
 - 3 「ディレクトリパスの指定」で、次のようにディレクトリを指定します。
(フロッピードライブがBドライブの場合)
<例> B:¥NW41J **[↵]**
 - 4 「インストールするドライバの選択」の画面が表示されます。「LGY98SV.LAN」を選択し、**[↵]** を押します。
 - 5 メッセージが表示されたら、「Yes」を選択します。
「LGY98SV.LAN」と「LGY98SV.LDI」がコピーされます。
 - 6 割り込み番号 (IRQ)、I/Oポートアドレスを設定する画面が表示されます。
各項目には、出荷時設定値が入力されています。必要に応じた値に設定してください。
□メモ 割り込みレベル (INT) と割り込み番号 (IRQ) の関係は次のようになっています。
- | | | | | |
|---------|-------|-------|-------|--------|
| 割り込みレベル | INT 0 | INT 1 | INT 2 | INT 5 |
| 割り込み番号 | IRQ 3 | IRQ 5 | IRQ 6 | IRQ 12 |
- 7 「パラメータを保存して続行」を選択し、**[↵]** を押します。
 - 8 「追加のネットワークドライバを選択しますか？」のメッセージが表示されたら、「No」を選択します。
以上でドライバのインストールは完了です。

NetWare 3.12Jサーバ


NetWare 3.12Jサーバのセットアップと同時にドライバをインストールする手順を説明します。
「NetWare 3.12Jインストールマニュアル」も併せて参照してください。

△注意 NetWare3.12Jサーバドライバをインストールする前に、本製品のリソースが競合していないか確かめてください。リソースが競合している場合は、本製品の設定を変更してから作業を行ってください。

ドライバのインストール手順


- 1 「LAN Board ユーティリティ」をフロッピードライブに挿入し、ドライバファイル (LGY98SV.LAN) をあらかじめコピーします。(ハードディスクドライブがAで、フロッピードライブがBの場合)
<例> A:¥>COPY B:¥NW41J¥LGY98SV.LAN A:¥ 

- 2 サーバドライバのインストール途中で、**GRPH**を押しながら**ESC**を押し、プロンプト(:)を表示させます。(例ではサーバ名を「MELCO」とします。)


- 3 次のように入力し、ドライバをロードします。
<例> MELCO:LOAD A:¥LGY98SV 

△注意 MELCO LGY98SV.LAN cannot be loaded until ETHERTSM is loaded.というエラーメッセージが表示された場合は、NetWareのインストール手順に誤りがあります。Novell NetWare のマニュアルを参照するか、ノベル認定リセラーへお問い合わせください。

- 4 割り込み番号 (IRQ)、I/Oポートアドレスを設定する画面が表示されます。各項目には、出荷時設定値が入力されています。必要に応じた値に設定してください。

 **メモ** 割り込みレベル (INT) と割り込み番号 (IRQ) の関係は次のようになっています。

割り込みレベル	INT 0	INT 1	INT 2	INT 5
割り込み番号	IRQ 3	IRQ 5	IRQ 6	IRQ 12

- 5 BINDコマンドを使用して、サーバドライバをIPXにバインドします。
<例> MELCO:BIND IPX TO LGY98SV 

- 6 ネットワーク番号を入力するようにメッセージが表示されますので、使用するネットワークのネットワーク番号を入力します。

- 7 バインド作業が終了すると、ワークステーションからサーバに接続することが可能になります。インストールが済んでいるワークステーションがあれば、ワークステーションからサーバに接続できるかどうかテストしてください。
以上でドライバのインストールは完了です。

AUTOEXEC.NCFの作成

サーバ内のAUTOEXEC.NCFファイルを使用すると、サーバの起動時に自動的にサーバドライバをロードすることができます。

AUTOEXEC.NCFの作成方法は次のとおりです。

- 1 NetWareのINSTALLプログラムを実行します。
- 2 「システムオプション」メニューを選択します。
- 3 「AUTOEXEC.NCFファイルの作成」を選択します。
入力したコマンド行を確認して、内容を保存します。

メモ 作成したAUTOEXEC.NCFファイルを変更したい場合は、[AUTOEXEC.NCFファイルの編集]を選択してAUTOEXEC.NCFファイルを編集してください。

サーバドライバのロード時のオプションについて

サーバドライバをロードする際には、次のオプションを指定することができます。

「INT」

割り込み番号 (IRQ) を指定します。(出荷時設定値:3)

メモ 割り込みレベル (INT) と割り込み番号 (IRQ) の関係は次のようになっています。

割り込みレベル	INT 0	INT 1	INT 2	INT 5
割り込み番号	IRQ 3	IRQ 5	IRQ 6	IRQ 12

「Port」

I/Oポートアドレスを16進数で指定します。(出荷時設定値:00D0h)

「FRAME」

ポートが使用するフレームタイプを指定します。フレームのタイプはNetWareサーバなどの接続先のコンピュータ側で設定されているものに合わせてください。NetWare3.11Jでは、フレームのタイプのデフォルトは802.3です。設定の際には注意してください。

指定できるフレームタイプは次の通りです。

Ethernet_802.2/Ethernet_802.3/Ethernet_II/Ethernet_SNAP

「NAME」

1枚の本製品に複数のFRAMEを割り当てた場合、プロトコルとのバインドを行うための名前を定義します。

< フレームタイプを2つ使用するときのLOADとBINDの記述例 >

```
LOAD A:¥LGY98SV INT=3 PORT=00D0 FRAME=Ethernet_802.3 NAME=LGY98_8023
```

```
LOAD A:¥LGY98SV INT=3 PORT=00D0 FRAME=Ethernet_802.2 NAME=LGY98_8022
```

```
BIND IPX TO LGY98_8023 NET=XXXXXXXX
```

```
BIND IPX TO LGY98_8022 NET=YYYYYYYY
```

マイクロソフトLAN マネージャクライアント

NDISドライバ (v2.01) を使用してマイクロソフトLAN マネージャのクライアントマシンとして設定する方法について説明します。

メモ NDIS (Network Driver Interface Specification) は、データリンク層と本製品の通信に関して、マイクロソフト社と3Com社が定めたインターフェースの規約です。本製品は、NDIS2.01 MACドライバの仕様を満たしており、マイクロソフトLAN マネージャクライアントソフトおよびNDISドライバ対応の各種アプリケーションを利用できます。LAN マネージャのサーバには使用できません。マイクロソフトWindowsNT Server 4.0/3.51 付属のLAN マネージャクライアントソフトウェアを使用することにより、WindowsNT Server 4.0/3.51に接続することができます。

ドライバのインストールを始める前に

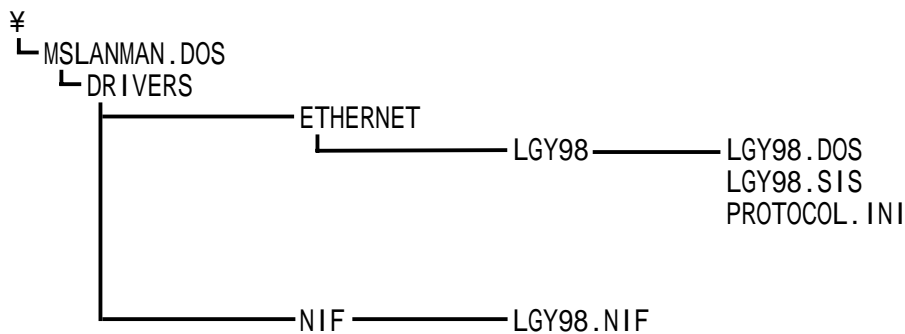
Windows3.1がセットアップされているパソコンでも、DOSプロンプトでインストールを行います。

注意 設定を行う前に、パソコンに本製品が正しく取り付けられていることを確認してください。

ディレクトリとファイルの構成

「LAN Boardユーティリティ」のMSLANMAN.DOS下のディレクトリ構成は、次のとおりです。

このディレクトリ構成は、LAN マネージャのインストール時に使用する「補助ドライバディスク」に合わせておきます。



「LAN Boardユーティリティ」で、提供されるドライバファイルは次のとおりです。

LGY98.DOS MS-DOS用ドライバ (LAN マネージャのサーバでは使用できません)

NDISドライバのインストールを行うために使用するファイルは次のとおりです。

PROTOCOL.INI プロトコルマネージャ設定ファイル

LGY98.NIF ドライバ情報ファイル

LGY98.SIS インストール用ファイル

ドライバのインストール

▲注意 設定を行う前に、パソコンに本製品が正しく取り付けられていることを確認してください。

ドライバのインストールは、パソコンの環境によって手順が異なります。
あてはまるケースに従って作業を行ってください。

▼次へ

マイクロソフトLANマネージャのセットアップ途中でドライバをインストールするとき

「セットアップ途中でドライバをインストールするとき」(P58)

マイクロソフトLANマネージャのセットアップ後にドライバをインストールするとき

「セットアップ後にドライバをインストールするとき」(P58)

セットアップ途中でドライバをインストールするとき

マイクロソフトLANマネージャのセットアップ途中でドライバをインストールするときは、次の手順に従ってください。

- 1 LANマネージャのセットアップを開始します。
インストールを続けていくと、『ドライバ選択』画面が表示されます。
- 2 **[TAB]** を押し、[その他のドライバ] にカーソルを合わせ **[↵]** を押します。
- 3 「LAN Boardユーティリティ」をフロッピードライブに挿入し、パス名に「B:」(フロッピードライブがBドライブの場合)を指定します。
『ドライバの選択』画面が表示されます。
- 4 [ドライバ一覧] から [LGY-98] を選択します。
- 5 ネットワークプロトコルは、サーバ側のプロトコルと同じものを選択します。
以降の操作は、画面の指示に従ってください。

セットアップ後にドライバをインストールするとき

マイクロソフトLANマネージャのセットアップ後にドライバをインストールするときは、次の手順に従ってください。

- 1 LANマネージャのSETUPユーティリティを起動します。
メニューが表示されます。
- 2 [表示 / 変更] を選択します。
- 3 [表示 / 変更] メニュー内の [ネットワークドライバの登録] を選択します。
現在の設定が表示されます。
- 4 [設定削除] を選択し、内容を削除します。

- 5 [新規設定]を選択します。
『ドライバ選択』画面が表示されます。
- 6 [TAB]を押し、[その他のドライバ]にカーソルを合わせ[↵]を押します。
- 7 「LAN Boardユーティリティ」をフロッピードライブに挿入し、パス名に「 B: 」(フロッピードライブがBドライブの場合)を指定します。
『ドライバの選択』画面が表示されます。
- 8 [ドライバー一覧]から[LGY-98]を選択します。
- 9 ネットワークプロトコルは、サーバ側のプロトコルと同じものを選択します。
以降の操作は、画面の指示に従ってください。

PROTOCOL.INIファイルについて

ドライバのインストール後に本製品の通信モードを手動で変更したい場合には、[PROTOCOL.INI]ファイルを直接修正してください。[PROTOCOL.INI]ファイルは、LANマネージャをインストールしたディレクトリに登録されています。

(例)

```
[LGY98_NIF]
;MELCO LGY-98 Ethernet NDIS Driver
DRIVERNAME=LGY98$
IOBASE=0x00D0
INTERRUPT=3
```

[PROTOCOL.INI]ファイルで指定できる値は以下のとおりです。

「DRIVERNAME」

NDISドライバのドライバ名を指定します。必ず半角大文字で、「LGY98\$」と記述してください。

「IOBASE」

I/Oポートアドレスを16進数で指定します。(出荷時設定値:0x00D0)

メモ 数値の前に「0x」を指定すると16進数の表記になります。

「INTERRUPT」

割り込み番号 (IRQ) を10進数で指定します。(出荷時設定値:3)

メモ 割り込みレベル (INT) と割り込み番号 (IRQ) の関係は次のようになっています。

割り込みレベル	INT 0	INT 1	INT 2	INT 5
割り込み番号	IRQ 3	IRQ 5	IRQ 6	IRQ 12

注意 Microsoft CD-ROM Extention(MSCDEX.EXE)を使用する場合は、AUTOEXEC.BATのLANマネージャに関する記述の後にMSCDEX.EXEを記述してください。

<記述例>

```
NET START WORKSTATION
LOAD NETBEUI
MSCDEX
```

パケットドライバ

メモ パケットドライバは、米国のFTP Software社が提案し、クラークソン大学で開発されたフリーソフトウェアです。現在Crynwr Software社がサポートを行っています。本製品は、Crynwr Packet Driver Collectionで提供されているパケットドライバソースを元に開発されました。パケットドライバに対応した各種アプリケーションが利用できます。

起動書式

パケットドライバの起動書式は次のとおりです。

LGYPKT packet_int_no <int_level> <io_addr>

「packet_int_no」

パケットドライバで使用するソフトウェア割り込みレベルを16進数で指定します。0x60から0x80の範囲で、使用していない割り込みを指定します。通常は0x60を選択します。

「int_level」

割り込み番号 (IRQ)を10進数で指定します。(出荷時設定値:3)

メモ 割り込みレベル (INT)と割り込み番号 (IRQ)の関係は次のようになっています。

割り込みレベル	INT 0	INT 1	INT 2	INT 5
割り込み番号	IRQ 3	IRQ 5	IRQ 6	IRQ 12

「io_addr」

I/Oポートアドレスを16進数で指定します。(出荷時設定値:0x00D0)

メモ 数値の前に「0x」を指定すると16進数の表記になります。







起動手順

- 1 「LAN Board ユーティリティ」をフロッピードライブに挿入します。
- 2 「LAN Board ユーティリティ」の ¥PKTDRV¥LGYPKT.COM をハードディスクにコピーします。
(ハードディスクドライブがAで、フロッピードライブがBの場合)
<例> A:¥>COPY B:¥PKTDRV¥LGYPKT.COM A:¥
- 3 「LAN Board ユーティリティ」をフロッピードライブから取り出します。
- 4 次のように入力し、パケットドライバで使用する割り込みレベルを指定します。
<例> A:¥>LGYPKT 0x60 3 0x00D0

NetWare Lite J

NetWare Lite JにODIドライバを組み込む手順は次のとおりです。

▲注意 パソコンにSHARE.EXEが組み込まれていると、インストール時に「ディスクがセットされていません」というメッセージが表示され、インストールを正常に行うことができません。インストール時にはSHARE.EXEの常駐を解除してください。SHARE.EXEがAUTOEXEC.BATに組み込まれている場合にはSHARE.EXEに関する記述を削除(またはREMコマンドなどでコメント扱いにする)して、パソコンを再起動してください。

- 1 「設定ファイルの生成」(P50)を参照して、LGY98.INSを作成します。
- 2 「NetWare Lite J インストールディスク」をフロッピードライブに挿入し、次のように入力します。(フロッピードライブがBDドライブの場合)
<例> B:¥>INSTALL 
- 3 メインメニューが表示されたら、[クライアント I サーバ I 両方]のいずれかを選択します。以後は画面の指示に従ってSTEP1~2の作業を行います。
- 4 STEP3の[ネットワークインタフェースカード]で を押します。
- 5 画面上にインタフェースカードの一覧が表示されます。 を押して一覧の最後にある[*その他のカード]を選択し、 を押します。
- 6 「LAN Board ユーティリティ」と「NetWare Lite Jインストールディスク」を入れ替えて を押します。
- 7 表示されたODIドライバのリストから[LGY98.COM]を選択します。
- 8 設定内容が表示されたら、確認後 を押します。以後は画面のメッセージに従って、ディスクを入れ替えてください。

▲注意

- NetWare Lite使用のため上記の手順1の作業を行った後、ODIドライバを使用してNetWareクライアントおよびPersonal NetWare J を使用するときは、「LANボード設定プログラム」で設定ファイル(LGY98.INS)を再度生成してください。
- Microsoft CD-ROM Extention(MSCDEX.EXE)を使用する場合は、AUTOEXEC.BATのSTARTNET.BATの記述の後にMSCDEXを記述してください。
<記述例>
CALL STARTNET
MSCDEX

Personal NetWare J

Personal NetWare Jインストール時にネットワークカード設定画面が表示されたら、次の手順に従ってください。
その他の手順は「Personal NetWare Jインストールガイド」を参照してください。
Windowsからインストールするときの本製品の指定方法は次のとおりです。

- 1 「その他のドライバ」をクリックします。
- 2 「LAN Board ユーティリティ」をフロッピードライブに挿入します。
- 3 挿入したドライブ名をダイアログボックスに入力し、[OK]をクリックしてください。
- 4 [1次インタフェースカード]の下向き矢印をクリックし、「LGY-98」を選択してください。

以後は画面の指示に従って、ディスクを入れ替えてください。

Personal NetWare J インストールガイドの最後で、LANドライバをインストール先のドライブにコピーします。画面の指示に従って、「LAN Board ユーティリティ」を再度フロッピードライブに挿入します。
以降の画面は「Personal NetWare J インストールガイド」に従ってください。

LANボード診断プログラムの実行方法と診断結果について説明します。

LAN ボード診断プログラムの実行

本プログラムを実行すると以下のことが確認できます。

- ・ 本製品の設定が正しく行われているか確認する
- ・ 本製品の設定が行われない場合に、その原因を調べる
- ・ LANドライバのロード中にパソコンがハングアップする
- ・ ネットワーク上でトラブルが発生している場合 (ネットワーク上の他のパソコンを認識できない、など)、その原因を調べる

LANボード診断プログラムの実行方法は、OS別に手順が異なります。



Windows98/95の場合

「Windows98/95のパソコンのとき」(P64)へ進みます。

MS-DOS, PC DOS, Windows3.1の場合

「DOS, Windows3.1のパソコンのとき」(P64)へ進みます。

WindowsNT4.0/3.51/3.5の場合

MS-DOSを起動し、「DOS, Windows3.1のパソコンのとき」(P64)へ進みます。

ハードディスクにMS-DOSがインストールされていないときは、フロッピーディスクからMS-DOSを起動してください。

⚠注意 WindowsNTのMS-DOSプロンプトからはLANボード診断プログラムは実行できません。

Windows98/95のパソコンのとき

- 1 **CTRL**を押しながら、パソコンの電源をONにします。起動メニューが表示されるまで、**CTRL**を押し続けてください。(Windows95の場合は、パソコンの電源をONにした後、「Windows 95を起動しています...」が表示されますので、すぐにキーボードの**F8**を押してください。)
- 2 Windows98/95の起動メニューが表示されますので、「コマンドプロンプトのみ」を選択し、DOSプロンプトで起動します。
- 3 「LAN Boardユーティリティ」をフロッピードライブに挿入し、次のように入力します。
(フロッピードライブがBドライブの場合)
B:¥>MELCHK **↵**
- 4 画面に、「LANボード診断プログラム for LGY-98 Ver X.xx MELCO Inc. Japan」と表示され、続いて診断結果が表示されます。

▶次へ 「診断結果」(P65)へ進みます。

DOS、Windows3.1のパソコンのとき

- 1 パソコンの電源をONにします。
Windows3.1が起動する場合はWindows3.1を終了して、DOSプロンプトの状態にします。
- 2 「LAN Boardユーティリティ」をフロッピードライブに挿入し、次のように入力します。
(フロッピードライブがBドライブの場合)
B:¥>MELCHK **↵**

⚠メモ 「ネットワーク使用中」のメッセージが表示された場合は、ネットワークを動作させずにパソコンを再起動してから、手順2の作業を行ってください。
- 3 画面に「LANボード診断プログラム for LGY-98 Ver X.xx MELCO Inc. Japan」と表示され、続いて診断結果が表示されます。

▶次へ 「診断結果」(P65)へ進みます。

診断結果

正常にLANボードが動作している場合は、画面に次のように表示されます。

LANボード診断プログラム for LGY-98 MELCO Inc. Japan

I/Oポートアドレス : 00D0
割り込みレベル : INT 0 (IRQ 3)

診断項目	診断結果
1. ボードのチェック	正常
2. 割り込みレベルのチェック	正常
3. LANコントローラのチェック	正常
4. 送受信メモリのチェック	正常
5. イーサネットアドレスのチェック	00:40:26:X:X:X
6. ループバックテスト	正常

ModeI3 TSR:XX ISR:XX

メモ I/Oポートアドレスが他のボードまたは内蔵ポートと重複している場合、「LGY-98ボードが装着されていません」というエラーが表示されることがあります。その場合には次のいずれかの処理を行ってください。

- ・重複している他のボードのI/Oポートアドレスを変更するか内蔵ポートを無効にする。
- ・重複している他のボードを取り外すか、内蔵ポートアドレスを無効にし、本製品のI/Oポートアドレスを変更する。
- ・ノートパソコンの場合、[パワーセーブ/レジューム]等の省電力の設定を「設定しない」にする。

ボードのチェック

本製品にハードウェア的な異常がないかを確認します。「エラー」と表示されたり、この診断中にプログラムが中断するときは、次のいずれかの原因が考えられます。

パソコンとの接触不良

他の拡張バススロットに取り付けなおして再度LANボード診断プログラムを実行してください。

本製品のハードウェア的な異常

本製品が複数枚ある時は、交換して診断プログラムを実行し、特定の本製品で異常が出るかどうか確認してください。

割り込みレベルのチェック

パソコン本体や他の周辺機器との割り込みレベルの重複を確認します。「エラー この割り込み番号はすでに使われています」と表示される場合は、次のいずれかの対策を行ってください。

- ・他の周辺機器の割り込みレベルを変更する
- ・他の周辺機器を全てパソコンから取り外した上で、LANボード設定プログラムを実行して本製品の割り込みレベルを変更する

LANコントローラのチェック

「エラー」と表示された場合は、本製品にハードウェア的な異常があると考えられます。本製品が複数枚ある時は、交換して特定の本製品で異常が出るかどうか確認してください。

送受信メモリのチェック

「エラー」と表示された場合は、次のいずれかの原因が考えられます。

- ・「I/Oポートアドレスを確認してください」と表示されたときはパソコン本体または他の周辺機器との、I/Oポートアドレスの重複
- ・本製品のハードウェア不良。本製品が複数枚ある時は交換し、特定の本製品で異常が出るかどうか確認してください。
- ・ハードウェア構成の誤り(例:本製品を拡張BOXに装着して使用している等)

イーサネットアドレスのチェック

数字はイーサネットアドレスです。XはLANボードによって異なります。

ループバックテスト

「エラー」と表示された場合は、次のいずれかの原因が考えられます。

- ・パソコン本体または他の周辺機器との割り込み、重複が考えられます。
- ・「割り込みレベルを確認してください」と表示された場合は、「割り込みレベルのチェック」を参照して設定の変更を行ってください。
- ・ケーブルの接続ミス
- ・ケーブルの断線
- ・ハブのポートの異常
- ・本製品の接触不良

⚠注意

ケーブルの接続ミスとは、次のような場合を指します。

10BASE2ケーブルの場合

- ・10BASE2ケーブルをT型コネクタを使わずに直接本製品のコネクタに取り付けている
- ・ケーブルの両端にターミネータが取り付けられていない
- ・T型コネクタやターミネータの取り付けが不完全(カチッと音がするまで回してください)

10BASE-Tケーブルの場合

- ・ストレートケーブルを使用して2台のパソコンを直接接続している(ハブを利用するか、2台のパソコンを接続するときは10BASE-Tクロスケーブル(別売:弊社製ETP-10X)またはストレートケーブル(別売:弊社製ETPケーブル)と変換コネクタパック(別売:弊社製ETP-XC)を使用してください)

T

トラブルシューティング

本製品をセットアップしても、ネットワークに接続できないときの現象、原因と対策方法について説明します。

共通

現象

本製品をパソコンに取り付けましたが、ネットワークに接続できません。

原因

ネットワークに接続するためのドライバ(本製品に付属)がインストールされていない。

対策

本製品に付属のドライバをインストールしてください。

現象

ネットワークに接続できません。

原因

- ・ストレートケーブルが、本製品側、ハブ側ともしっかり接続されていない。
- ・ストレートケーブルが切断していることがあります。

対策

- ・「カチッ」というまでしっかり接続してください。
- ・別のストレートケーブルで接続してください。
- ・他のパソコンで正常にLANに接続しているハブとケーブルを使用してみてください。

T

現象

本製品がパソコンに認識されません。

原因

本製品が確実にパソコンに差し込まれていない。
I/Oポートアドレスが重複している

対策

本製品を差し込み直してください。差し込んだ後、確実に差し込まれているか確認してください。
パソコンに取り付けられている他の拡張ボードとI/Oポートアドレスが重複していることが考えられます。このときは、他のボード(またはポート)が使用するI/Oポートアドレスを変更するか、一度他の拡張ボードを取り外してから本製品のI/Oポートアドレスを変更してください。

現象

ネットワークに接続できません。

原因

ケーブルの接続を間違えていると接続できません。

対策

「ケーブルの接続」(P16)を参照して再確認してください。

現象

LANポート診断プログラムが正常に実行できない。または、診断結果が「正常」と表示されるのにトラブルが発生する

原因

Windowsの実行時のみリソースが競合している。
常駐プログラム(メニュープログラム、圧縮ソフトなど)が動作している。

対策

パソコンまたは周辺機器のマニュアルを参照して、本製品のリソース(I/Oポートアドレス、割り込みレベル)が重複していないかを確認してください。
CONFIG.SYSやAUTOEXEC.BATから常駐プログラムを削除し、パソコンを再起動してください。

現象

Windows98/95で「ネットワークコンピュータ」をダブルクリックしても、他のコンピュータが表示されません。

原因

Windows98/95を起動したときにパスワードを入力していないと、ネットワークに接続できません。
ネットワークを検索して、接続されているコンピュータが表示されるまでに、時間がかかることがあります。

対策

Windows98/95を起動したときにユーザー名とパスワードを必ず入力してください。万が一、パスワードを忘れてしまったときは、別のユーザー名を入力してください。パスワードは、特に入力しなくても構いません。(パスワードを設定したいかたは入力してください。ユーザー名とパスワードがコンピュータに登録されます。)

接続されているコンピュータが表示されるまで、少し時間をおいてください。時間をおいても接続されているコンピュータが表示されないときは、次のことを確認してください。

- ・ドライバは正常にインストールされていますか?
 ▶参照 「本製品の設定」(P26)
- ・Windows98/95を起動したときに、ユーザー名とパスワードを入力していますか?
- ・Peer to Peer接続するための設定は、できていますか?
 ▶参照 「ネットワークの設定例」(P28)

現象

PC-9821 V200シリーズでIRQの設定が変更できません。または、ネットワークに接続できません。

原因

PC-9821 V200シリーズは、IRQが全て使用されています。

対策

以下の手順に従って「2nd CCU」を「使用しない」に変更し、本製品のIRQを設定してください。

HELPを押したままパソコンを再起動します。

パソコン本体のシステムセットアップメニュー(詳しくはパソコン本体のマニュアル参照)で、[動作環境の設定]の中の[2nd CCU]の設定を「使用しない」にします。

Windows95を起動後、[スタート]-[設定]-[コントロールパネル]-[システム]を選択して、[デバイスマネージャ]タブをクリックします。

[ネットワークアダプタ]の下の[MELCO LGY-98]を選択して、[プロパティ]をクリックします。

[リソース]タブをクリックしてIRQの設定をIRQ 5に変更します。

「LANポート診断プログラム」(P63)を実行し、設定内容がすべて正常と表示されることを確認します。
パソコンを再起動します。

現象

PC-9821 Xシリーズ、Vシリーズ (VALUESTAR) で本製品の設定をしましたが、ネットワークに接続できません。

原因

割り込みレベルが競合しています。

対策

以下の手順に従って設定を変更してください。

[HELP]を押しながらパソコンをリセットし、システムセットアップメニューを起動します。

コンピュータ本体のサウンド機能を「使用しない」または「INT41」に変更します。

Windows98/95を起動後、[スタート]-[設定]-[コントロールパネル]-[システム]を選択して、[デバイスマネージャ]タブをクリックします。

[サウンド、ビデオ、およびゲームのコントロール]を選択して[プロパティ]をクリックします。

手順でサウンド機能を「使用しない」に設定した場合、「Original Configuration(使用中)」のチェックボックスの印を消します。(Windows98の場合は、「このハードウェアプロファイルを使用不可にする」のチェックボックスに印を付けます。) サウンド機能を「INT 41」に設定した場合、[リソース]タブをクリックしてIRQの設定をIRQ 12からIRQ 10に変更します。

[スタート]-[設定]-[コントロールパネル]-[システム]を選択して、[デバイスマネージャ]タブをクリックします。

[ネットワークアダプタ]の下の[MELCO LGY-98]を選択して、[プロパティ]をクリックし、[リソース]タブをクリックしてIRQの設定をIRQ12に変更します。

変更後、[OK]をクリックします。リソースの設定とボードの設定が異なっている場合は、「ボードの設定を現在の設定に変更しますか?」と表示されますので、[はい]をクリックします。

[Windowsを終了しますか?]のメッセージが表示されますので、[はい]をクリックします。

「LANポート診断プログラム」(P63)を実行し、設定内容がすべて正常と表示されることを確認します。パソコンを再起動します。

現象

以下の状態にも関わらず、正常に動作しません。

・ Windows98/95の[デバイスマネージャ]で「MELCO LGY-98」の「プロパティ」が「競合なし」と表示されている。

・ LANポート診断プログラムの診断結果がすべて「正常」と表示されている。

原因

リソースが競合しています。

対策

パソコン本体や周辺機器の中には、Windows98/95の実行時のみにリソースを使用するものがあります。この場合はLANポート診断プログラムの診断結果が正常であったとしても、リソースの重複が発生することがあります。パソコン本体または周辺機器のマニュアルを参照して、リソースが本製品と重複していないか確認してください。

本書で使われている用語の中で、ネットワークを構成する上で必要となる用語について説明します。

I/Oポートアドレス(Input/Output)

CPUと周辺機器との間には、情報をやりとりする出入り口があります。どの周辺装置がどの出入り口を使うかを区別するために、各装置に割り当てられる番号がI/Oポートアドレスです。

IRQ(割り込み要求:Interrupt Request)、INT(割り込みレベル)

パソコンの周辺機器が要求する処理は全てCPUが行いますが、CPUはどの機器からいつ要求が来るかを予想できません。CPUが常に全ての機器を監視していると、処理時間より先監視時間のほうが長くなり、非効率的です。そこで、各周辺機器から、CPUに対して実行してほしいことが発生した場合に、IRQの番号を使用して、現在CPUが行っている処理に「割り込み」と「要求」をします。CPUは、どの装置から要求が来たかをIRQ番号より判断し処理を行います。割り込み要求の処理が終わると、CPUは通常の処理に戻ります。

INT(割り込みレベル)とIRQ(割り込み要求)の関係は以下の通りです。

割り込みレベル	INT 0	INT 1	INT 2	INT 4	INT 5
割り込み番号	IRQ 3	IRQ 5	IRQ 6	IRQ 10	IRQ 12

LAN(Local Area Network)

「ラン」と発音する。1つの建物の中やキャンパスの敷地内など比較的狭い地域でのネットワーク。10Mbps～100Mbpsの伝送速度が一般的。

MACアドレス(Media Access Control Address)

ネットワークカードごとの固有の物理アドレス。

MACアドレスは、先頭からの3bytesのベンダコードと残り3bytesのユーザコードの6bytesで構成される。ベンダコードは、IEEEが管理/割り当てを行っており、ユーザコードは、ネットワークカードの製造メーカーが独自の番号(重複はしない)で管理を行っている。つまり、MACアドレスは、世界中で単一の物理アドレスが割り当てられることになる。Ethernetではこのアドレスを元にしてフレームの送受信を行っている。

Microsoftネットワーククライアント

Windows98/95/NT4.0などのサーバサービスを利用するためのクライアントソフトウェア。通常プロトコルには、「NetBEUI」が使用される。

NetBEUIプロトコル

小規模から中規模のLAN用のネットワークトランスポートプロトコルである。NetBEUIは、OSIプロトコルモデルのトランスポートおよびネットワーク層プロトコルに相当する。これをNetBIOSと統合することにより、ワークグループLAN環境で効率的な通信システムが実現される。Windows98/95/NT4.0などで、サポートされている。

Peer to Peer接続

パソコンが、LANやWANを介して互いに対等な関係で行う通信。サーバ・クライアントシステムとは異なり、ネットワーク上のいずれのパソコンも他のユーザにその資源を利用可能にすることができる。

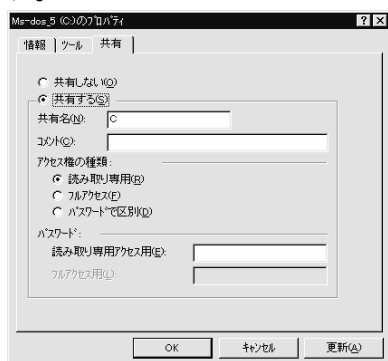
TCP/IP(Transmission Control Protocol/Internet Protocol)

OSI参照モデルのネットワーク層とトランスポート層に相当するプロトコルで、RFCによって定義されている。そのため、TCP/IPを実行していれば異なる端末間で互いに通信することができる。

- ・ 通常は、TELNETやFTPといったアプリケーションプロトコルも含まれる。
- ・ インターネット標準のプロトコルである。

Windows98/95の共有設定画面

共有したいドライブのアイコンをマウスの右ボタンでクリックし、メニューから「共有」を選択すると、次の画面が表示されます。



画面内の説明は、次の通りです。

- 共有しない** : ドライブの共有を解除するときを選択します。
- 共有する** : ドライブの共有を設定するときを選択します。
- 共有名** : 共有するドライブの名称を変更することができます。
- アクセスの種類** : 共有するドライブに対して読み書きの許可を設定します。
- 読み取り専用** : 共有するドライブを読み込み専用にします。
- フルアクセス** : 共有するドライブに読み書きを許可します。
- パスワードで区別** : パスワードにより、読み書きを許可します。
- パスワード** : 「アクセスの種類」に対するパスワードです。
- 読み取り専用** : 読み取りを許可するときのパスワードを設定します。

Windows98/95のユーザー名とパスワード

ドライバのインストールが完了し、パソコンを再起動すると、『ネットワークパスワードの入力』ダイアログボックスが表示されます。

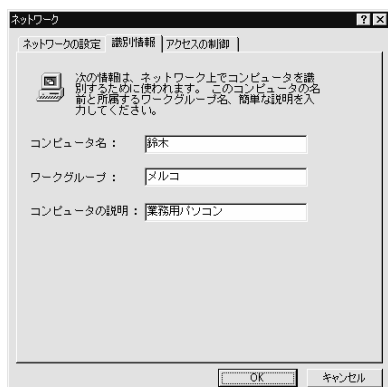
- ・ ネットワークを使用するときは、ユーザー名とパスワードを入力してください。但し、ネットワークを使用しないときは入力する必要はありません。
- ・ ユーザー名とパスワードは、Windows98/95をセットアップする過程で設定しています。初めてログインするときは、セットアップ時のユーザー名とパスワードを入力してください。(パスワードは、入力しなくても構いません。)
- ・ マルチユーザーで複数の環境を切り替えてパソコンを使用できるようになっています。よって、新たにユーザー名とパスワードを入力することにより、ログインできます。

Windows98の識別情報(Windows95の場合はユーザー情報)画面

表示される画面

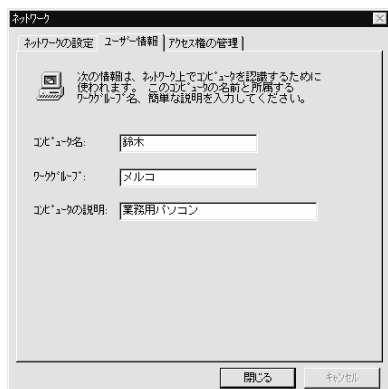
Windows98の場合

「ネットワーク」アイコンをダブルクリックして、「識別情報」タブをクリックすると、次の画面が表示されます。



Windows95の場合

「ネットワーク」アイコンをダブルクリックして、「ユーザー情報」タブをクリックすると、次の画面が表示されます。



画面内の説明

画面内の説明は、次の通りです。

- コンピュータ名 : ネットワーク上で、コンピュータを識別するための名称です。各パソコン毎に固有の名称を設定します。
- ワークグループ : ネットワーク上で、区別をするための名称です。特に分ける必要がなければ、ネットワーク内のパソコンは、全て同一の名称にしてください。
- コンピュータの説明 : 「コンピュータ名」の補足説明です。特に入力しなくても構いません。

クライアント

サービスの提供を受ける側。サーバにある情報やサービスを利用することができる。

プロトコル

ネットワーク端末間でデータの受け渡しを行うための手順や規則。

例えば、2つのコンピュータが通信を行う場合に、どちらが先にどのようなメッセージを送信するか、また、そのメッセージを受けてどのようなメッセージを返すか、データの形式はどうなっているか、通信エラーの対応など、通信を行う上で必要な条件をすべて手順化しておくことで、規則正しい情報の伝達を行うことができる。

リソース(システムリソース)

パソコンの各周辺装置(マウス、キーボードなど)や、LANボード、LANカードなどに割り当てられているIRQ、I/Oポートアドレスを総称した名称。






付録

本製品の仕様について説明します。

製品仕様

製品名	LGY-98J-2	LGY-98J-T	LGY-98J-M
LAN インターフェース	IEEE802.3(イーサネット)規格		
	10BASE2	10BASE-T	10BASE2/5/-T
コネクタ	BNC	RJ-45モジュラジャック	BNC D-sub15ピン (スライドロック式) RJ-45モジュラジャック
バッファメモリ	16Kバイト		
I/Oポートアドレス	n0D0 ~ n0DFh, n2D0 ~ n2DFh, n3D0 ~ n3DFh, (nは0 ~ 7のいずれか) (出荷時設定:n=0)		
割り込みレベル	INT 0, 1, 2, 5(出荷時設定値:INT 0)		
消費電流	390mA	140mA	390mA
電源供給	パソコン内蔵電源		
温度範囲	動作時:0 ~ 50 (温度勾配10 /h)、保存時:-10 ~ 55		
湿度範囲	動作時:20 ~ 85%(但し、結露なきこと)		
外形寸法	外部拡張スロット標準サイズ		


対応機種、対応OSについては、「本製品の概要」(P7)を参照してください。

 最新の製品情報や対応機種については、カタログまたはインターネットホームページ(<http://www.melcoinc.co.jp/>)を参照してください。

製品名	LGY-98J-N2	LGY-98J-NT	LGH-98J-T
LAN インターフェース	IEEE802.3(イーサネット)規格		
	10BASE2	10BASE-T	
コネクタ	BNC	RJ-45モジュラジャック	
ポート	-		外部:8、内部:1
バッファメモリ	16Kバイト		
I/Oポートアドレス	n0D0 ~ n0DFh, n2D0 ~ n2DFh, n3D0 ~ n3DFh, (nは0 ~ 7のいずれか) (出荷時設定:n=0)		
割り込みレベル	INT 0, 1, 2, 5(但し、LGY-98J-N2/NTはINT 2不可)(出荷時設定値:INT 0)		
消費電流	390mA	140mA	280mA
電源供給	パソコン内蔵電源		ACアダプタ (DC9V 外:+/内:-) パソコン内蔵電源
温度範囲	動作時:0 ~ 50 (温度勾配10 /h)、保存時:-10 ~ 55		
湿度範囲	動作時:20 ~ 85%(但し、結露なきこと)		
外形寸法	105mm(W) × 32mm(H) × 72mm(D)		外部拡張スロット標準サイズ

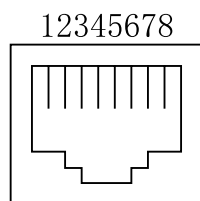
:ACアダプタ未装着時

対応機種、対応OSについては、「本製品の概要」(P7)を参照してください。

 最新の製品情報や対応機種については、カタログまたはインターネットホームページ(<http://www.melcoinc.co.jp/>)を参照してください。

モジュラコネクタ(MDI)仕様

ISO/IEC8877:1992で規定されたRJ-45型8極コネクタを使用しています。



MDI信号の割り当て

ピン番号	MDI信号	信号機能
1	TD+	送信データ(+)
2	TD-	送信データ(-)
3	RD+	受信データ(+)
4	(Not Use)	未使用
5	(Not Use)	未使用
6	RD-	受信データ(-)
7	(Not Use)	未使用
8	(Not Use)	未使用

A

付録

索引

A

AUTOEXEC.NCFの作成 56

D

DOS、Windows3.1のパソコンのとき 64

I

I/Oポートアドレス 71

IRQ、INT 71

L

LAN 71

LANコントローラのチェック 65

LANボード 10

LANボード診断プログラム 63

LANボード診断プログラムの実行 63

LGH-98J-T 19

LGH-98J-Tの接続について 20

LGY-98J-2/N2/M 17

LGY-98J-2/T/M、LGH-98J-T 7, 13

LGY-98J-M 18

LGY-98J-N2/NT 7, 15

LGY-98J-T/NT/M 16

M

MACアドレス 71

MACアドレスを確認するには 35, 42, 47

Microsoftネットワーククライアント 71

「Microsoftネットワーククライアント」の追加方法 33

「Microsoftネットワーク共有サービス」の追加 29

N

NET.CFGファイルについて 51

「NetBEUI」、
「Microsoftネットワーククライアント」の確認 28

「NetBEUI」の追加方法 34

NetBEUIプロトコル 71

NetWare 3.12Jサーバ 55

NetWare 4.1Jクライアント 52

NetWare 4.1Jサーバ 54

NetWare Lite J 61

P

Peer to Peer接続 71

Peer to Peer接続をするための
設定方法 28

Personal NetWare J 62

PROTOCOL.INIファイルについて 59

T

TCP/IP 72

T型コネクタ 11

W

Windows3.1/DOS環境での設定 48

Windows95のユーザー情報画面 73

Windows98/95がセットアップ済みの場合 23

Windows98/95のドライブ構成について 22

Windows98/95のパソコンのとき 64

Windows98/95のユーザー名とパスワード 72

Windows98/95の共有設定画面 72

Windows98/95環境での設定 22

Windows98の識別情報画面 73

WindowsNT3.51/3.5が
セットアップ済みの場合 44

WindowsNT3.51/3.5が
セットアップ途中の場合 45

WindowsNT3.51/3.5環境での設定 43

WindowsNT4.0がセットアップ済みの場合 37

WindowsNT4.0がセットアップ途中の場合 41

WindowsNT4.0環境での設定 36

あ

イーサネットアドレスのチェック 66

一般的な接続の例 20

か

各部の名称とはたらき	10
カスケード接続の例	21
組み込まれているネットワークアダプタが 複数の場合	28
組み込まれているネットワークアダプタが 本製品だけの場合	28
クライアント	73
ケーブルの接続	16
コンピュータ名・ワークグループの確認	30
ご使用になる前に	6

さ

サーバドライバのロード時の オプションについて	56
診断結果	65
製品仕様	74
設定ファイルの生成	50
セットアップのながれ	12
セットアップ後にドライバを インストールするとき	58
セットアップ途中でドライバを インストールするとき	58
送受信メモリのチェック	66

た

対応OS	7
対応機種	7
他のパソコンへの接続	32
添付ディスクのバックアップ	9
動作環境	7
特長	7
ドライバのインストール	37, 44, 58
ドライバのインストールを 始める前に	22, 37, 44, 57
ドライバのインストール手順	52, 53, 54, 55
ドライバの選択	41, 45
トラブルシューティング	67
取り付け前の注意事項	13

な

ネットワークの設定例	28
ネットワーク構成上の注意事項	20

は

バケットドライバ	60
初めてドライバをインストールする場合	37
パソコンとの接触不良	65
パソコンの共有設定	31
パッケージの内容	8
付録	74
プロトコル	73
ボードのチェック	65
本書の使い方	6
本製品のハードウェア的な異常	65
本製品の概要	7
本製品の取り付け	13
本製品の設定	26, 48
本製品の設定を変更するときは	41, 46
本製品の動作確認	42, 47
本製品を取り付けて Windows98/95をセットアップした場合	25
本製品を複数枚使用するかたへ	36, 43

ま

マイクロソフトLANマネージャクライアント	57
メディアコンバージョンサービスについて	9
モジュラコネクタ(MDI)仕様	75

や

用語集	71
-----	----

ら

リソース(システムリソース)	73
ループバックテスト	66

わ

割り込みレベルのチェック	65
--------------	----

MEMO

保証書について

本製品付属の保証書には保証期間と保証規定が記載されています。内容をお確かめになり、大切に保管してください。

ユーザー登録について

ユーザー登録はがきに必要事項を記入して郵送して頂ければ、弊社製品のユーザーとしてご登録いたします。

本製品に対するサポートやバージョンアップなどのサービスは、ユーザー登録されている方でなければ受けられません。

ユーザー登録後に製品を譲渡した場合でも、ユーザー登録は変更できません。

修理について

故障と思われる症状が発生したときは、まずマニュアルを参照して設定や接続が正しいか確認してください。改善されない場合は、次の事項をお調べになった資料と保証書の原本を添付し、弊社修理センター宛に製品を直接お送りください。

ご依頼いただいた修理品以外に関するお問い合わせは、承っておりません。

宅配便など、送付の控えが残る方法でお送りください。郵送は固くお断りいたします。

送料は送り主様のご負担とさせていただきます。なお、輸送中の事故に関しては、弊社はいかなる責任も負いかねますので、あらかじめご了承ください。

修理にお送りいただく際に、弊社への事前連絡は不要です。

ハードディスクをお送りいただいた場合、そのハードディスクはフォーマットいたします。必要なデータは事前にバックアップを作成しておいてください。

修理期間は、製品の到着後7日程度（弊社営業日数）を予定しております。

製品送付先： 〒456-0023 名古屋市熱田区六野二丁目1-3中京倉庫内33号6階
株式会社メルコ 修理センター宛
TEL:052-889-2104

チェック項目：	返送先 [氏名/住所/電話番号(内線)/FAX番号]	コンピュータ [本体メーカー名/型番/シリアルナンバー]
	平日昼間の連絡先 [氏名/住所/電話番号(内線)/FAX番号]	ハードディスク [メーカー名/型番/シリアルナンバー]
	修理対象のメルコ製品名	プリンタ [メーカー名/型番/シリアルナンバー]
	弊社製品ハードウェア シリアルナンバー	その他周辺機器 [メーカー名/型番/シリアルナンバー]
	弊社製品ソフトウェア シリアルナンバー	OS(オペレーティング・システム) [ソフト名/メーカー名/バージョン]
	具体的な症状/エラーメッセージ	アプリケーション/バージョン [症状に依存性のある場合は詳細も]
	発生状況 [始めから/ある日突然/環境を変えたら]	製品以外の添付品 [付属ソフトなど]
	発生頻度 [必ず/頻繁/時々/時間が経つと、他]	

弊社製品の情報は次の方法で入手できます



インター
ネット

<http://www.melcoinc.co.jp/>

(ミラーサーバ <http://www.melcoinc.com/>)



製品
サポート

インフォメーションセンター

〒457-8520 名古屋市南区柴田本通4-15
株式会社メルコ ハイテクセンター内



NIFTY
SERVE

MELCO Station < GO SMELCO >

本製品のサポートは下記で承っております。

<東京> 03-5350-7870

<名古屋> 052-619-1825

月～金 9:30～12:00/13:00～17:00 祝日を除く

事前にメモとペンを用意し、次の事項を確認しておいてください。

- ・コンピュータ名と使用OS
- ・本製品の製品名とシリアルナンバー
- ・設定内容(スイッチ設定など)
- ・現象(具体的なエラーメッセージなど)



FAX情報

052-614-6911

情報を受け取りたいFAXの電話でダイヤルし、
音声案内に従って操作してください。
トーン信号(ピポパ音)の出るFAXを使用してく
ださい。

「メルブック」シリーズ

メモリを知ろう	386マシンをマルチメディアパソコンにする	外部記憶装置をグレードアップしよう
LANを知ろう	CPUアクセラレータを知ろう	イメージクリップボードでホームページを つくろう
外部記憶装置を知ろう	イメージクリップセットとWordで	インターネットを始めよう
Windowsを知ろう	年賀状をつくろう	ミニコンポ 企業での導入事例

1冊1,000円 + 送料270円 書店では販売しておりません。

お申し込み先

- | | |
|------------|---|
| 1. インターネット | http://www.melcoinc.co.jp/qa/info3.html |
| 2. FAX情報 | 052-614-6911 (BOX No.0800) |
| 3. 郵送 | 〒457-8520 名古屋市南区柴田本通4-15 株式会社メルコ 備品販売窓口 |

メルコパソコン教室

「DOS/Vパソコン組み立て体験教室」などを主催する株式会社メルコテクノスクールでは、ネットワーク関連の各種研修も実施しております。出張社員研修なども実施しておりますので、お気軽にご相談ください。

- ・インターネット接続設定教室
- ・小規模LAN構築実践体験教室
- ・LANケーブルリング実践体験教室
- ・LAN/WAN構築実践体験教室
- ・光ファイバケーブルリング実践体験教室

このほかにも、随時新規カリキュラムを開講中です。お申し込み、お問い合わせは、以下へお願いします。

TEL: 052-251-7911 FAX: 052-249-2460

パソコン教室に関する最新情報は、次の方法でも入手することができます。

- ・インターネット ... <http://www.melcoinc.co.jp/>
- ・NIFTY SERVE ... MELCO Station <GO SMELCO>
- (ミラーサーバ <http://www.melcoinc.com/>)
- ・FAX情報 ... 052-614-6911 (BOX No.0803)